

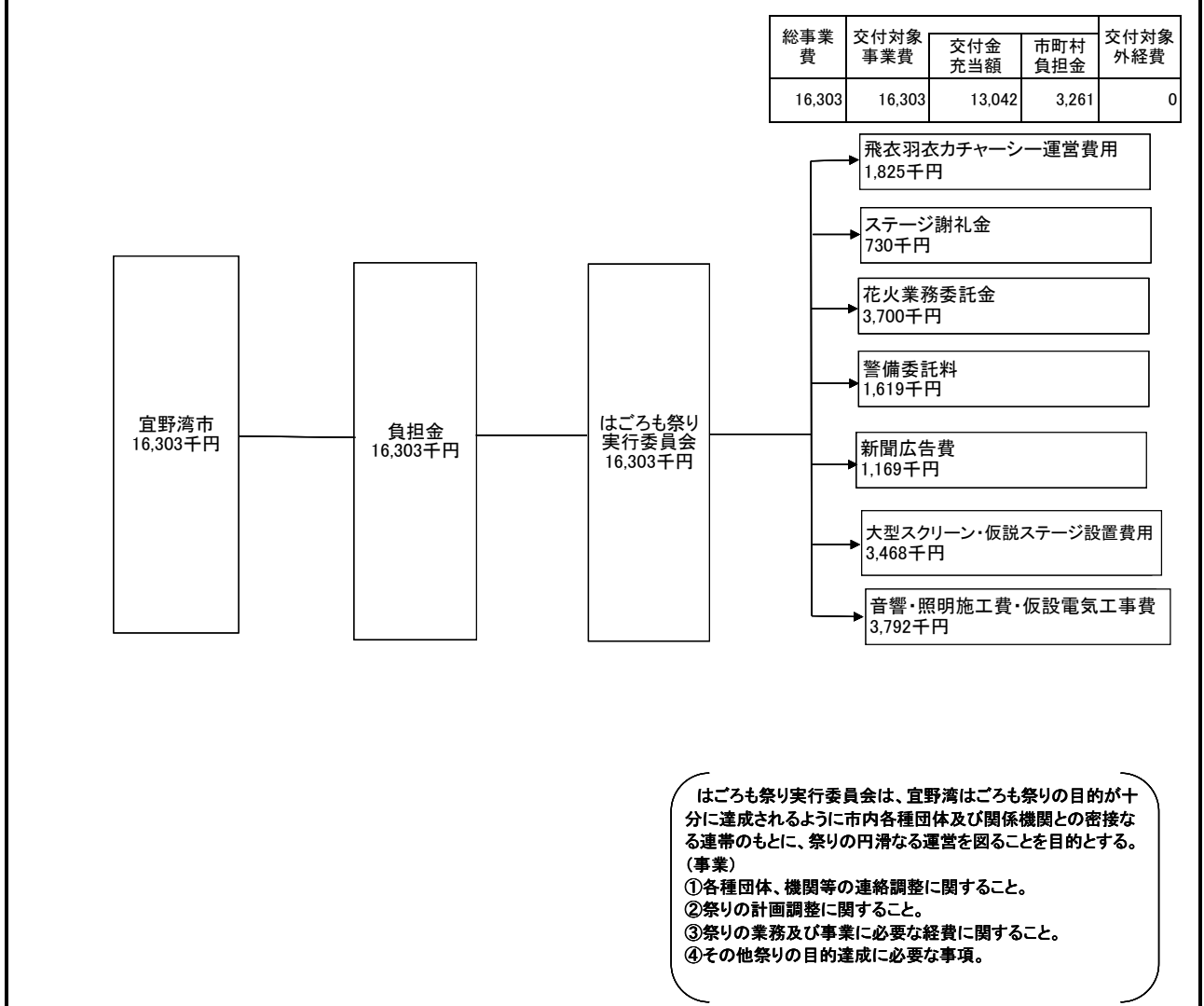
市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	はごろも祭り・カチャーシー大会運営事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	市民経済部 観光農水課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立	
事業内容	市民意識の高揚と親睦を図りつつ、地域活性化及び商工・観光振興の観点から「はごろも祭り・カチャーシー大会」を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		17,053	17,053	19,600	17,053	16,303	
		17,053	17,053	19,600	4,434	16,303	
		0	0	0	▲ 12,619	0	
		-	-	-	-	-	
		17,053	17,053	19,600	4,434	16,303	
		17,053	17,053	19,600	4,434	16,303	
		13,642	13,642	15,680	3,547	13,042	
		0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	はごろも祭り実行委員会への支援を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	はごろも祭り・カチャーシー大会への支援	目標	(20イベント)	(まつり等への支援)	(まつり等への支援)	(まつり等への支援)	
		実績	24イベント	まつり等への支援	まつり等への支援	まつり等への支援	
	【参考指標】 カチャーシー大会参加数	目標	子供・団体(20 チーム×20名) 個人100名	()	()	()	
実績		子供・団体25チーム 個人36名					
達成状況説明	令和元年9月28日(土)、29日(日)に実施した第42回宜野湾はごろも祭り・カチャーシー大会は145,000人の観客が訪れ、盛況に終えることができた。ただ会場である市海浜公園内は、祭り当日、多目的運動場の建設工事期間中であったことから、一部会場の使用ができず、察度王絵巻行列やちびっこエイサーなど一部プログラムの中止や見直し、出店数の削減など規模の縮小を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (H27年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)	
		カチャーシー大会演舞者数: 個人の部:41名、団体の部:25団体	目標 (団体:25団体 個人:41名) 実績 (団体:25団体 個人:35名)	団体:25団体 個人:41名 0	団体:25団体 個人:41名 0	団体:25 個人:41名 団体:19団体 個人:32名	
	はごろも祭り・カチャーシー大会来場者数 目標:160,000人	目標	(14万人)	(14.5万人)	(14.5万人)	(16万人)	()
		実績		18万人	0人	14.5万人	
	進捗状況説明	一部会場の使用ができず、察度王絵巻行列やちびっこエイサーなど一部プログラムの中止や見直し、出店数の削減など規模の縮小などが影響し、前回(H29年度)と比較し来場者数が減少した。28日(土)7.5万人、29日(日)7万人、合計14.5万人となり目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>●市海浜公園内の多目的運動場建設工事に伴い、会場が一部制限され、これまで実施してきた察度王絵巻行列を中止、ちびっこエイサーや市老連、主婦連などのプログラムを一部見直し、さらには出店業者数を削減するなど、祭り全体の内容や規模の縮小をせざるを得なかった。</p>	<p>第42回のごろも祭りは来場者の安全性にも留意しながら、全体の内容、規模を縮小し実施した。そのような状況でも、どうにか14.5万人の来場者数が訪れ、目標の9割を達成できたことは良かった点であったが、新たなコンテンツを取入れるなど、来場者を減らさないような取り組みが必要であったと考える。</p>

今後の取り組み方針

・県内の様々な団体、企業と連携し、はごろも祭りの新たなコンテンツの取り組み、開発を行い、更なる来場者の増加に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



はごろも祭り実行委員会は、宜野湾はごろも祭りの目的が十分に達成されるように市内各種団体及び関係機関との密接なる連帯のもとに、祭りの円滑なる運営を図ることを目的とする。(事業)

- ①各種団体、機関等の連絡調整に関すること。
- ②祭りの計画調整に関すること。
- ③祭りの業務及び事業に必要な経費に関すること。
- ④その他祭りの目的達成に必要な事項。

資金の用途の流れ、検証、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・実行委員会への支出(支出先の妥当性)
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・第42回のごろも祭りの決算額は約32,584千円となっており、それに占める本市からの負担金の割合は約50%(16,303千円)となっている(予算規模及び受益者との負担関係の妥当性)。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、清算段階で検査を実施しており、目的に即し必要な支出と判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	企画展開催事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア			
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a)当初予算額	4,458		3,462	3,544	3,312	
	(b)予算現額	2,784	事業 休止	3,462	3,437	3,312	
	(c)増減額(b-a)	▲1,674	0	0	▲107	0	
	(d)繰越額	-		-	-	-	
	A.計(b+d)	2,784	0	3,462	3,437	3,312	
	B.執行済額	2,674		3,076	3,265	3,268	
	うち交付金充当額	2,139		2,460	2,612	2,614	
	次年度繰越額	0		0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.0%	0.0%	88.9%	95.0%	98.7%	
予算の状況の説明	計画通りの事業執行が出来た。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	企画展を開催:2回	目標	(事業 休止)	(2回 (交付金対象))	(2回 (交付金対象))	(2回 (交付金対象))	
		実績		2回 (交付金対象)	2回 (交付金対象)	2回 (交付金対象)	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	一括交付金に係る企画展として、宜野湾市立博物館開館20周年記念企画展I「化石展-土の中からお宝発見!-」と、地域との共同企画展「ぎのわんの“字”展 権現前ナチョル、普天間ムラ」の2回を開催した。「化石展」では沖縄県立博物館・美術館より、マンモスやアンモナイト、琉球石灰岩等を借用し、本市を形成する石灰岩台地の特徴の理解につなげることを目的に、地中から発見される堆積物から分かることを紹介した。また、「ぎのわんの字展」では、普天間という地域の歴史文化を紹介した。地元から写真や民俗資料等の提供を受けて開催することができ、新しい地域発見と対外的に地域PRIに貢献することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (23年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
	企画展1回あたりの平均入館者数: 1,300人以上	目標	()	(1,850人/回)	(1,300人/回)	(1,300人/回)	()
		実績		1,130人/回	1,435人/回	4,496人/回	
	【参考指標】 入館者数(総来館者数と企画展入館者数)	目標	総来館者数 16,000人 (企画展入館者 6,000人)	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・R1年度は博物館開館20周年を記念に6回の企画展を開催した(うち、交付金に係る企画展は2回)。 ・R1年度の総入館数は34,743人(H30比:967人増)で、企画展入館者は15,075人(H30比3人減)であった。そのうち、交付金に係る企画展については、企画展入館者数の59.6%の8,992人が来館し、1回の企画展平均来館者数は、4,496人であった。 ・総入館者は昨年度よりも増加し、交付金に係る企画展は、昨年度より3.1倍上回る数値で目標を達成することができた。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・夏場は夏休み期間に合わせて客層を子ども達に関心のあるテーマを設定し、秋以降は地域理解につながる歴史や文化を紹介したテーマで企画展を行った。また企画展に関連した講演会を行ったことで、来館者数が目標を上回ることができた。</p>	<p>・時季に合わせた企画展テーマと来館客層を検証して企画展を実施する。また、専門家による講座や野外への巡見講座など運動した企画と運動した展開を行う。</p> <p>・popスター、チラシ等の効果的な周知の検討。</p>

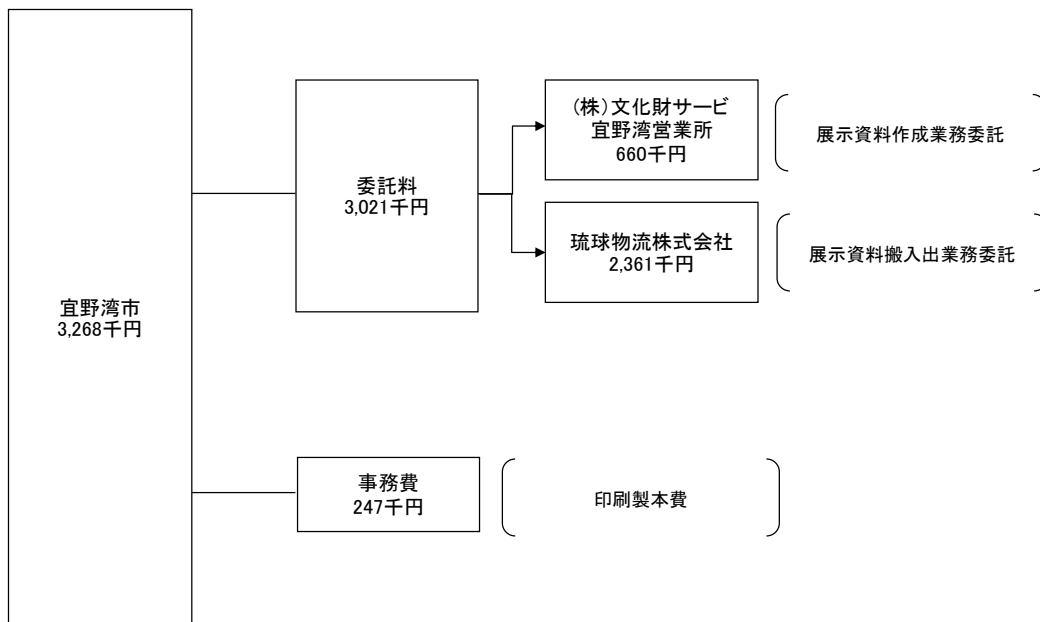
今後の取り組み方針

・前年度と同様、企画展のテーマと関連する講座やギャラリートーク、市内外に残る旧所・名跡の野外での巡見などを開催する。

・マスコミへの取材依頼や博物館HPでの周知、近隣市町村の学校や施設等への広報に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,268	3,268	2,614	654	0



資金の流 れ、 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、①県内でも同種類・同規模の業務を確実に履行した実績があること、②沖縄・宜野湾の歴史・文化情報に精通していること、③博物館資料の運搬について、資料の性格や状態を理解し、過去に同種類・同規模の実績を有することを重視して選定しており、妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○用途については、企画展終了後も作成資料が歴史・文化教育の学習教材用として、また観光PRIにも活用ができ、目的や額は適正だと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

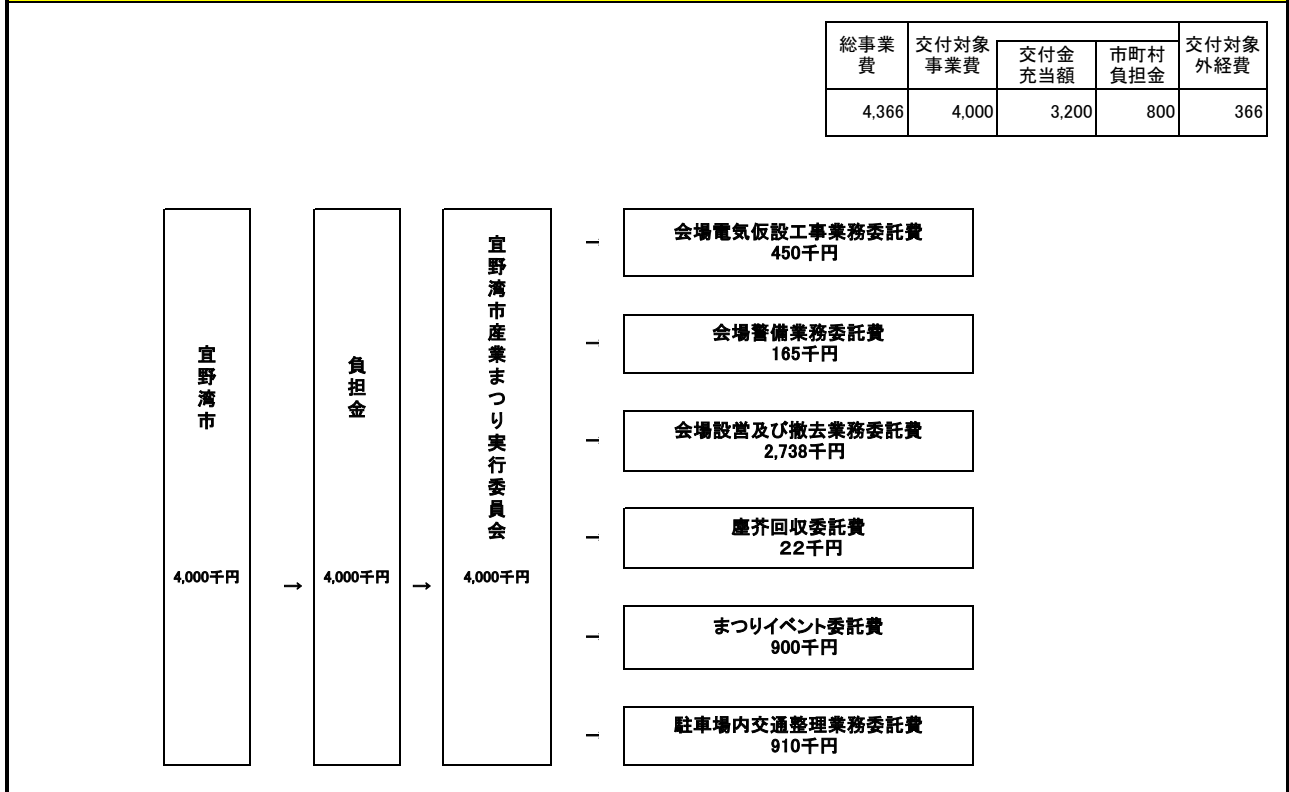
市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
	1-③	宜野湾市産業まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-オ 世界水準の観光リゾート地の形成	
担当部署名	市民経済部観光農水課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	市の特産品のPRや産業振興及び観光振興を図るため、宜野湾市産業まつりの開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率 (%) (B/A)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	
		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	
		0	0	0	0	0	
		-	-	-	-	-	
		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	
		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	
		3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	
		0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	事業計画通りに予算執行がなされた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	宜野湾市産業まつりへの支援	目標	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)	
		実績	産業まつり開催	産業まつり開催	産業まつり開催	産業まつり開催	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・農業協同組合・浦添・宜野湾漁業協同組合・宜野湾市商工会の協力の下、11/23・24の2日間「宜野湾市産業まつり」を開催。 ・祭り前日の悪天候のため、1日目に予定していたヒージャーオーラサーなど、一部プログラムの中止を余儀なくされたが、祭り当日は晴天に恵まれ、開催することができた。 ・両日、宜野湾市の特産日である田芋料理の展示、飲食販売を実施し、短時間で売り切れるほどの好評であった。また、二日目には畜産共進会や魚つかみ取り競争、イカ汁の無料配布を行い、地産地消を推進できた。 ・ステージイベントでは、沖縄のお笑い芸人「ありんぐりん」や宜野湾市在住のミュージシャン「イクマあきら」さんのライブなどで賑わい、盛況となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)	
	宜野湾市産業まつり来場者数 R1年度28,000人 (参考H29 23,000人 H30 33,000人)	目標	()	(26,000)	(26,000)	(28,000)	(28,000)
		実績		23,000	33,000	24,000	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・祭り前日の悪天候や一部のプログラム変更の影響で、1日目の来場者が例年より減少。2日目は例年通りの来場者があったが、2日間通して約24,000人(1日目8,000人、2日目16,000人)と、目標の26,000人を下回った。 ・チラシ・ポスター・ノボリ、新聞広告・HPによる周知、広報に努めた。会場内においては農林水産物・商工業製品等の品評会及び展示即売会等を実施した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度より、開催場所を市民広場から宜野湾海浜公園内に変更し開催している。海浜公園は舗装されているため、水はけがよく、身障者の方でも利用しやすいなどのメリットがある一方、交通の便や駐車スペースが少ないなどの理由により、以前の市民広場での開催を希望する声もいただいている。 本市の特産品である田芋は、生産者の高齢化や担い手不足などの理由により、生産量は減少傾向にあるため、田芋の確保が課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> メリット、デメリットを検証し、企画委員会、実行委員会にて開催場所の検討を行う。 近隣駐車場の借用協力要請、公共交通機関の利用促進等により、駐車スペースの確保。 生産者やJAと調整を行いながら、田芋の確保に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・来場者の負担を軽減するため、近隣駐車場の借用協力要請、公共交通機関の利用促進等により、駐車スペースの確保に取り組む。
 ・継続して田芋のPRが行えるよう、生産者やJAと協力し、田芋の確保に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



使途の点検評価	資金の流れ、費	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○	○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会方式の運営を行っており、支出先の選定は妥当である。 ○過去と同規模での産業まつりに対し同額を予算計上していることから予算規模は適正であったと判断する。 ○費目使途のについて、精算段階で検査を実施しており妥当である。
			○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
			-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	○	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 琉球海炎祭支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア		
	市民経済部 観光農水課		事業実施(予定)年度 平成24年度～令和3年度		国際的な沖縄観光ブランドの確立		
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-1		
事業内容	日本で一番早い夏の大花火をキャッチフレーズにしたイベントである。日本の夏の風物詩である花火と沖縄音楽・文化の融合によるオリジナリティーに溢れた沖縄最大の一大イベントであり、本市の観光振興に寄与しているため、当該イベントを支援し、観光・コンベンション機能の充実を図る。						
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) <input type="checkbox"/>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	2,000	2,000	3,000	3,000	3,000
	(b)予算現額	2,000	2,000	3,000	3,000	3,000	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	2,000	2,000	3,000	3,000	3,000	
	B.執行済額	2,000	2,000	3,000	3,000	3,000	
	うち交付金充当額	1,600	1,600	2,400	2,400	2,400	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初の計画通り琉球海炎祭実行委員会へ支援を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	琉球海炎祭への支援		目標 (琉球海炎祭実行委員会への補助)	(琉球海炎祭実行委員会への補助)	(琉球海炎祭実行委員会への補助)	(琉球海炎祭実行委員会への補助)	
			実績 琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初の計画通り、琉球海炎祭実行委員会へ支援を行った。 4月の開催ではあるが、日本で一番早い夏の大花火をキャッチフレーズにしたイベントとして定着してきている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	①有料エリア総来場者数:15,000人 ②有料観覧エリア県外客数:6,000人 ③有料観覧エリア海外客数:2,000人		目標 ()	(①11,500人 ②4,500人)	(①15,000人 ②6,000人 ③2,000人)	(①15,000人 ②6,000人 ③2,000人)	()
			実績	①14,962人 ②7,697人	①19,211人 ②5,911人 ③3,374人	①19,518人 ②5,923人 ③4,562人	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月13日に宜野湾トロピカルビーチで開催した琉球海炎祭では、花火と音楽・文化の融合によるオリジナリティー溢れた花火イリュージョンを実施し多くの来場者で賑わった。 今年は天候にも恵まれ、更には、台湾を中心とする海外からの来場者が4,562名になるなど(前年度3,374名)、一日開催のイベントとして県内最大のインバウンド事業となり、今後も国外からの誘客に期待が持てる。 平成31年度は海外からのツアー客が大幅の増となったことで、更なるインバウンドの対応を行った(案内、スタッフ(英語、中国語対応)など)。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 市海浜公園内の多目的運動場の建設工事に伴い、例年活用しているツアーバスの駐車スペースが一部使用不可となった。 海外からの観光客への対応が毎年増加しており、本部において様々な事業でインバウンド対応が急増している(公園施設内の質問や出店の品へのクレーム、トイレの場所など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 市、琉球海炎祭実行委員会及び施設管理者と協議を行い、今後も増えるであろうツアーバスの新たな駐車スペースの確保 これまでは県外からの観光客への案内、ふるさと納税のPR等を行っていたが、海外向けにも沖縄県及び宜野湾市のPRの必要性がある。 毎年、インバウンド対応のための人材を増員し配置しているが、インバウンドへの対応件数も増加する一方で、十分な対応ができていない状況がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 市、琉球海炎祭実行委員会及び施設管理者と協議を行い、今後も増えるであろうツアーバスの新たな駐車スペースの確保を行う。 海外向けの観光案内パンフレットなどの配布を行い沖縄県及び宜野湾市のPRを行う。 増加し続けるインバウンドの来場者への対応を引き続き行っていく。 		

資金の流れ											
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3,000</td> <td style="text-align: center;">3,000</td> <td style="text-align: center;">2,400</td> <td style="text-align: center;">600</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,000	3,000	2,400	600	0	<pre> graph LR A[宜野湾市 3,000千円] --> B[補助金 3,000千円] B --> C[琉球海炎祭実行委員会 3,000千円] C --> D[打ち上げ花火費 3,000千円] </pre>
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費							
3,000	3,000	2,400	600	0							
<p>受益者負担額等 協賛金:32,323千円 チケット販売:26,636千円 特別席販売:2,023千円 出店:1,713千円 グッズ販売:380千円</p>	<p>琉球海炎祭実行委員会規則(事業) ①琉球海炎祭の企画及び運営に関すること。 ②チャリティイベント「とどけよう模合のココロ」プロジェクトの企画及び運営に関すること。 ③前項に掲げるもののほか、琉球海炎祭の開催に必要な事項(経費)</p>										
資金使途の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明								
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・実行委員会への支出(支出先の妥当性)								
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・2019琉球海炎祭の決算額は約75,593千円となっており、それに占める本市からの補助金の割合は約3.9%(3,000千円)となっている(予算規模及び受益者との負担関係の妥当性)。								
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・補助金3,000千円の使途は琉球海炎祭における花火製作に係る費用となっている(費目・使途が必要なものに限定されている)。								
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。									

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-エ		
	市民経済部 観光農水課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	観光客の受入体制の整備		
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-1		
事業内容	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信し、観光・経済に大きな効果が期待できる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	1,715	1,715	1,715	1,715	1,715
	(b) 予算現額	1,715	1,715	1,715	1,715	1,715	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	1,715	1,715	1,715	1,715	1,715	
	B. 執行済額	1,715	1,321	1,554	1,715	1,715	
	うち交付金充当額	1,372	1,057	1,242	1,372	1,372	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	77.0%	90.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・当初計画していたとおり、横浜DeNAベイスターズ宜野湾友の会へ支援を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	植樹する花の苗		目標 (10,000鉢)	(10,000鉢)	(10,000鉢)	(10,000鉢)	
			実績 15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明		・横浜DeNAベイスターズ宜野湾春季キャンプに伴い球団関係者や監督・選手並びに来場者を気持ちよく迎えるため、野球場を中心とした海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信することを目的に、宜野湾市はごころも緑化会の協力の下実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	宜野湾海浜公園の景観形成について、魅力的なプロ野球キャンプ地としての景観形成が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標 ()	()	()	(80%)	()
			実績			-	
	【参考指標】プロ野球キャンプ見学者数 目標値(令和元年度):26,000人 基準値(H24年度):22,300人		目標 (22,300人)	(25,500人)	(26,000人)	(26,000人)	()
		実績		24,531人	25,000人	21,420人	
進捗状況説明		・横浜DeNAベイスターズ花いっぱい運動開催当日は、天候にも恵まれ沖縄県緑化推進委員会より花苗5,000鉢の寄贈を含め15,000鉢の植栽を行った。 ・キャンプ期間中、様々なイベント、ファンサービスなどを実施したが、新型コロナの影響により感染防止対策を講じながらファンサービスの制限をせざるを得ず、来場者数も前年度より減少した。 ・来場者の満足度、意見を確認し、次年度以降に反映できるように一番多くの来場者が訪れるオープン戦においてアンケート調査の実施を行う予定であったが、オープン戦に係る新設したスコアボードの操作対応を依頼されたため、YDBとのアンケート調査実施にかかる調整ができなかった。					

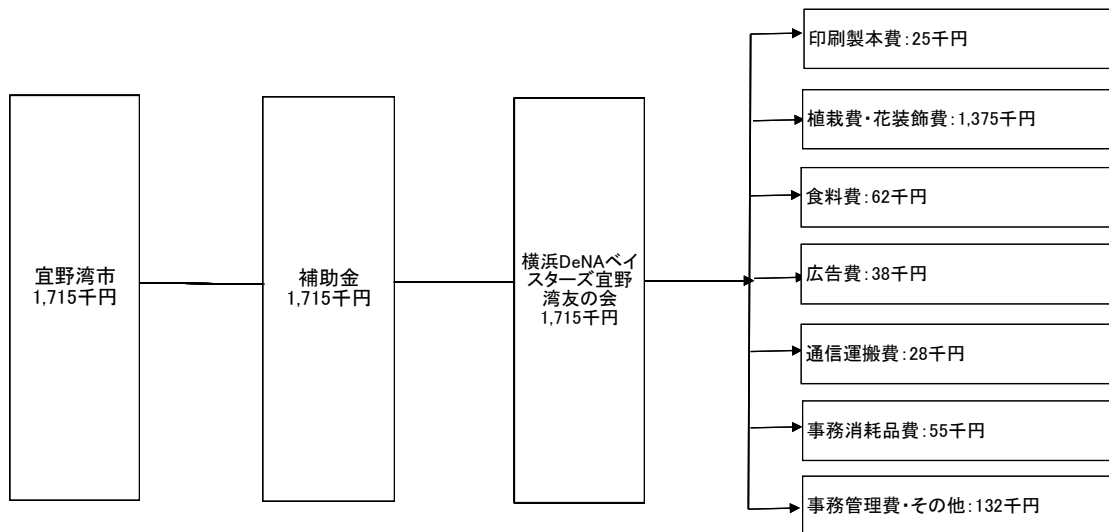
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 花の苗を植樹しベイスターズの歓迎ムードの醸成し、球団や来場者を気持ちよく迎えることで、南国の沖縄及び美しい宜野湾市をPRすることを目的に当事業を実施しているが、来場者がどのように感じているかがわからない状況。 新型コロナの影響によりキャンプ期間中のイベントについてマスクの着用や、来場者やYDBのファンサービスの制限など様々な部分で影響が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者の満足度、意見を確認し、次年度以降に反映できるように一番多くの来場者が訪れるオープン戦においてアンケート調査の実施を行う予定であったが、急きょオープン戦に係る様々な対応が必要となり、YDBとのアンケート調査実施にかかる調整ができなかった。 今後、YDBの選手の様々なファンサービスやイベントにおいて、新型コロナ対策も含め、衛生面の対応が必要になると考える。

今後の取り組み方針

- 県が実施しているアンケート調査に本市独自のアンケート内容を組み込む調整を行う。
- YDBと調整し、ファンサービスなどのイベントに係る衛生面、新型コロナ感染対策を講じる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,715	1,715	1,372	343	0



横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティー事業に係る経費に対する支援

資金の流 れ、使 途の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、横浜DeNAベイスターズ友の会は、現在もキャンプの受け入れを行っている団体であり、補助の支出先として妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-⑦ トロピカルビーチ賑わい創出事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア	
	市民経済部 観光農水課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	国際的な沖縄観光ブランドの確立	
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-1	
事業内容	本市の観光資源であるトロピカルビーチでミュージックイベント等を開催することにより、市民の憩いの場や観光客の賑わいを創出し、アフターコンベンションの新たな観光スポットとして定着を図る。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	6,600	6,600	6,600	6,600
	(b) 予算現額	6,600	6,600	6,600	6,600	5,939
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	6,600	6,600	6,600	6,600	5,939
	B. 執行済額	6,600	6,587	6,600	6,583	5,939
	うち交付金充当額	5,280	5,269	5,280	5,266	4,751
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.8%	100.0%	99.7%	100.0%
予算の状況の説明		令和元年10月19日(土)、20日(日)に「トロピカルビーチミュージックパーティinぎのわん2019、トロパ2019」を実施。20日(日)については、台風20号接近のため当日、中止の判断をした。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	イベントの開催	目標	(イベントの開催)	(イベントの開催)	(イベントの開催)	(イベントの開催)
		実績	イベントを開催した	イベントを開催した	イベントを開催した	イベントを開催した
		目標	()	()	()	()
実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年10月19日、20日に実施したミュージックイベント「トロパ2019」は、19日、雨の予報が出ていたことが影響し、客足がのびなかった。20日(日)については、沖縄近海にて低気圧が急きよ、台風20号へ発達し、沖縄本島へ接近。そのため、20日当日に中止の判断を行った。 夕方以降のステージイベントの際には多くの来場者で賑わい、盛況となった。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(H28年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	(6,511人)	(7,000人)	(8,000人)	(7,000人)
	実績		4,408人	4,800人	2,000人	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 7,000人を目標としていた来場者数であったが、悪天候により客足が伸びなかった。 アンケート調査については、94件の回答を集計した結果、94.6%の人が「またこうしたイベントを実施してほしい」と回答した。 沖縄サントリーにも協力を依頼し、商品の提供や会場のレイアウトなど、これまでにはない会場の雰囲気を作ることができた。 					

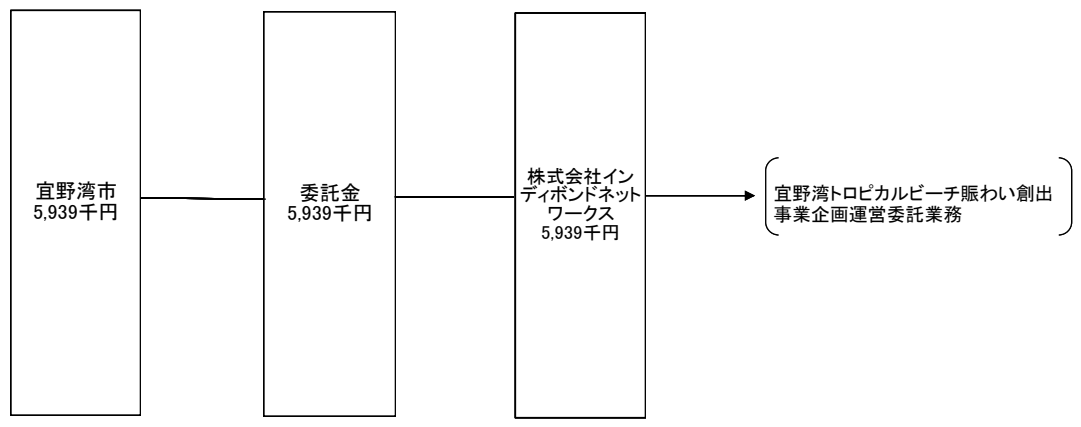
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・同時期は県内において多数のイベントが実施されている(来場者数や出店業者数の確保が課題)。 ・県内の企業から協力を得ながら新たなコンテンツの導入も検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月は県内複数のイベントが開催されていることから、開催時期の見直しの検討も必要と考える。 ・新たなイベントやコンテンツを検討し、更なる充実したイベントを開催できるように検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・イベントが複数重なったとしてもイベント内容を充実させ他のイベントに負けないような新たなイベントの企画やコンテンツの開発を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,939	5,939	4,751	1,188	0



資金の流 れ、 点 検 、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者との契約は、本事業の委託内容がイベント等の企画力、創造性が求められる業務であることから、価格のみによる競争入札に適合しておらず、価格以外の要素を含め総合的に判断するため、企画提案公募型プロポーザル方式にて選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧	宜野湾海浜公園施設等再編整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(イ)		
担当部署名	建設部 施設管理課	事業実施 (予定)年度	平成30年度 ～ 令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	地域住民の福祉の向上、質の高い文化芸術公演に触れる機会の確保及び観光誘客を図るため、宜野湾海浜公園及びその周辺の整備に係る実施設計を行った。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		21,363	86,671				
			18,792	43,835				
			▲ 2,571	▲ 42,836	0	0	0	
			-	-				
			18,792	43,835	0	0	0	
	B. 執行済額		18,792	43,835				
	うち交付金充当額		15,033	35,068				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		宜野湾海浜公園再編整備実施設計及び市立グラウンド管理棟基本・実施設計を実施。 ・野外劇場改修設計業務は他の交付金事業として執行することとなったため、対象経費から6,820千円を減額。 ・宜野湾海浜公園再編整備実施設計は対象経費から落札差額6,600千円を減額。 ・市立グラウンド管理棟基本・実施設計は12月補正で落札差額29,416千円の予算減。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	宜野湾海浜公園施設等再編整備基本構想・基本計画をベースに実施設計		目標 (整備基本計画策定)	(実施設計完了)	()	()		
		実績 整備基本計画策定	実施設計完了					
達成状況説明		基本構想・基本計画をベースに、宜野湾海浜公園再編整備の実施設計と、市立グラウンド管理棟基本・実施設計を完了できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R3年度	目標値(R4年度)	
	利用促進、誘客促進に向けた整備設計の完成		目標	()	(基本計画策定)	(実施設計完了)	()	()
			実績		基本計画策定	実施設計完了		
	【R3年度成果目標】(市立グラウンド)整備により利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。		目標	()	()	()	(80%)	()
			実績					
	【R4年度成果目標】(事業完了による海浜公園全体の利用者数)61.1万人		目標	()	()	()	()	(611,000)
実績								
進捗状況説明		宜野湾海浜公園再編整備実施設計及び市立グラウンド管理棟基本・実施設計の完了。						

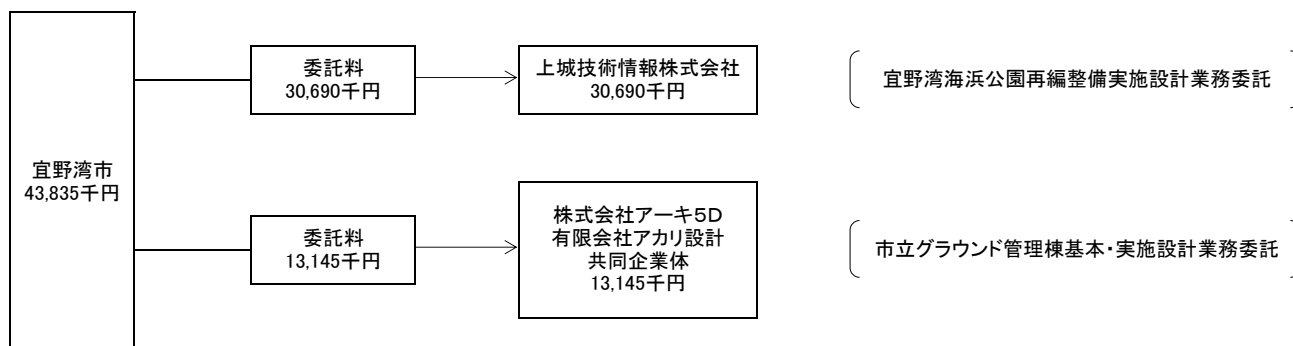
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備工事の際は、公園利用者への影響を最小限とするよう配慮する。特に駐車場の増設については、公園利用者と工事作業動線を適切に区分し、影響が最小限となるよう留意する。 市立グラウンド管理棟の工事については、令和2年度から予定していたが予算措置できず、工事ができない状態となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備工事の工区分けを行い、優先度を付けて整備を行っていく。 市立グラウンド管理棟工事の予算措置。

今後の取り組み方針

・令和2年度から宜野湾海浜公園再編整備工事を行い、公園施設の機能強化を図る。整備完了後も計画的・効率的な施設の管理運営を実施し、観光客や公園利用者の利便性向上を図る。
 ・市立グラウンド管理棟の工事については、予算確保に向けて関係部署などと調整を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
43,835	43,835	35,068	8,767	0



資金の流 点検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は実績と見積から積算し、適正な規模と認識している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、精算段階で検査・検収を実施しており、事業目的に即して適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	嘉数高台公園施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(エ)	
担当部課名	建設部 施設管理課	事業実施 (予定)年度	平成30年度 ～ 令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	戦跡等もあり観光地としての側面もある嘉数高台公園において、来園者の利便性を図るため、公園施設を含めた再編整備実施設計を行った。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,633	16,830			
		(b) 予算現額	4,104	15,840			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 529	▲ 990	0	0	0
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	4,104	15,840	0	0	0
	B. 執行済額		4,104	15,840			
	うち交付金充当額		3,283	12,672			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		嘉数高台公園再編整備実施設計を実施。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	嘉数高台公園施設整備基本計画をベースに実施設計		目標 (整備基本計画策定)	(実施設計完了)	()	()	
			実績 整備基本計画策定	実施設計完了			
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	基本計画をベースに、嘉数高台公園再編整備実施設計を完了できた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (R4年度)
	老若男女、少数から団体まで、利用者の利便性向上に向けた着実な実施(嘉数高台公園施設整備実施設計の完成)		目標 ()	(基本計画策定)	(実施設計完了)	()	()
			実績	基本計画策定	実施設計完了		
	【R4成果目標】利便性の確保が図られたかを含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標 ()	()	()	()	(80%以上)
			実績				
進捗状況説明	嘉数高台公園再編整備実施設計の完了。						

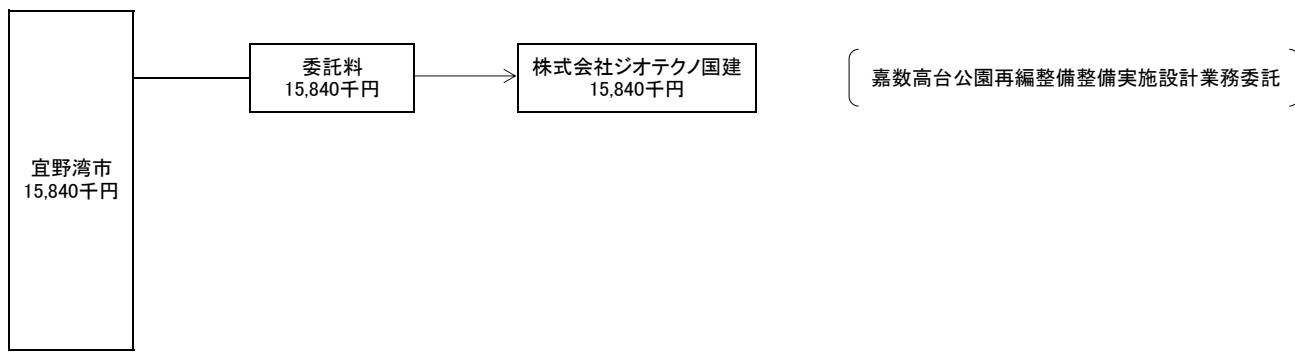
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備工事の際は、公園利用者への影響を最小限とするよう配慮する。 また、周辺が民家のため、工事の事前周知、協力願いなどを行い、苦情などで工程に影響がでないよう努める。 公園に常駐する管理人がいないため、利用者満足度の測定が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備工事の工区分けを行い、優先度を付けて整備を行っていく。 今後、公園利用者の満足度を業務委託により調査することについて、何らかの手法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・観光客や利用者には、工事期間中も快適かつ安全安心に利用してもらうよう努め、利用価値向上と継続利用へつなげる。
 ・整備による施設の利用価値向上に伴う利用者ニーズのモニタリング等を実施し、指定管理者と連携を緊密にし、更なる価値向上を図る。整備完了後も計画的・効率的に施設の管理運営を実施し、観光客や利用者の利便性の向上を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,840	15,840	12,672	3,168	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は実績と見積から積算し、適正な規模と認識している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、精算段階で検査・検収を実施しており、事業目的に即して適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑩	プロ野球キャンプ野球場施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(エ)		
担当部課名	建設部 施設管理課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	プロ野球キャンプの実施及びスポーツ合宿の実施増加を図ることを目的に、スコアボードの整備等を実施した。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		14,881	54,683		4,860	174,248	
			17,630	50,632		4,158	169,367	
			2,749	▲ 4,051	0	▲ 702	▲ 4,881	
			-	-	-	-	-	
			17,630	50,632	0	4,158	169,367	
	B. 執行済額		17,630	50,618		4,158	169,367	
	うち交付金充当額		14,103	40,494		3,326	135,493	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・市立野球場スコアボード機能拡張工事の完了と工事監理業務委託の実施。 ・市立野球場バックネット改修設計の実施。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	バックネット改修実施設計、スコアボード改修工事	目標	()	スコアボード改修実施設計完了	バックネット実施設計(スコアボード改修工事)完了	()	()	
		実績		スコアボード改修実施設計完了	バックネット実施設計スコアボード改修工事完了			
		目標	()	()	()	()		
	実績							
達成状況説明	・バックネット改修工事に向けた実施設計の完了。 ・スコアボード機能拡張工事の完了。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)	
	2021春季キャンプの供用開始に向けた事業の着実な実施。(バックネット改修設計及びスコアボード改修工事の完成。)	目標	()	スコアボード改修実施設計完了	バックネット実施設計スコアボード改修工事完了	バックネット改修工事実施	()	
		実績		スコアボード改修実施設計完了	バックネット実施設計スコアボード改修工事完了			
	【R3成果目標】 ①プロ野球キャンプ実施件数 ②スポーツ合宿誘致件数		目標	()	()	()	()	()
		実績						
進捗状況説明	・バックネット改修工事に向けた実施設計の完了。 ・スコアボード機能拡張工事の完了。							

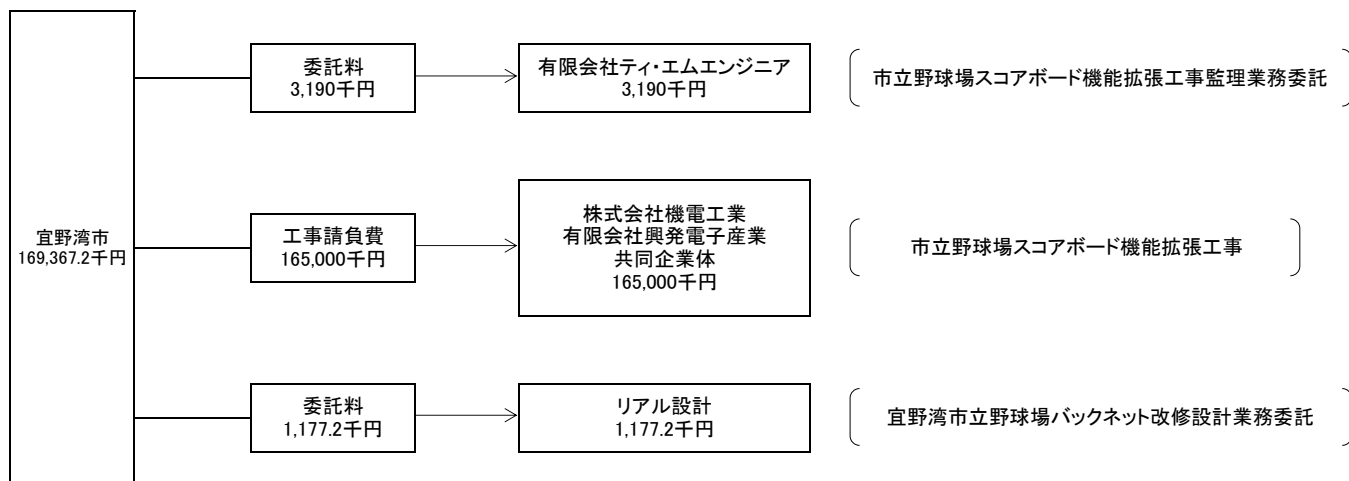
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・電光掲式スコアボードについては、2月に供用開始ができ、プロ野球キャンプでも利用もできた。今後は管理方法などの調整等が必要である。 ・バックネット改修工事は、野球場の利用に制限がかかる。 ・他球団の県内キャンプ野球場が改修改築される中で、宜野湾市立野球場においてもプロ水準の施設を目指し、キャンプ誘致を継続して実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアボードの維持管理については、専門業者による年1回の点検を行う。日頃の維持管理については、専門業者の指導、助言などを受けて行っていく。 ・野球場の年間利用計画を確認し、工事時期を調整する。 ・市立野球場のほか、周辺のキャンプ関連施設についても整備し、野球場だけでなく周辺施設も含めたキャンプ地全体をアピールし、県内外からの集客を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・市立野球場の段階整備として、次はバックネット改修工事を実施し、利用環境のさらなる改善に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
169,367	169,367	135,493	33,874	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は実績と見積から積算し、適正な規模と認識している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、精算段階で検査・検収を実施しており、事業目的に即して適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	博物館機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成26年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	観光振興及び生涯学習に資することを目的に、文化発信拠点である市立博物館の機能強化を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,437	59,400			4,165
		(b)予算現額	6,437	57,456			4,165
		(c)増減額(b-a)	0	▲1,944	事業 休止	0	0
		(d)繰越額	-	-			-
		A.計(b+d)	6,437	57,456	0	0	4,165
		B.執行済額	6,383	57,456			3,740
		うち交付金充当額	5,016	45,964			2,992
		次年度繰越額	0	0			0
		執行率(%) (B/A)	99.2%	100.0%	0.0%	0.0%	89.8%
予算の状況の説明	補正にて326千円を減額し、交付対象事業(宜野湾市立博物館空調設備改修設計業務委託)は全額執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	館内施設整備(空調設備改修設計)	目標	(常設展示室整備(製作))	(事業)	(事業)	(空調設備改修設計)	
		実績	常設展示室整備(製作)	事業 休止	事業 休止	空調設備改修設計を行った	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	館内施設整備は、目標とする空調設備改修設計を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R4年度)
	館内施設整備(空調設備改修設計)の完了	目標	()	(事業)	(事業)	(空調設備改修設計)	()
		実績		事業 休止	事業 休止	空調設備改修設計を完了した	
	【R4年度成果目標】 年間利用者数 24,573人	目標	()	()	()	()	(24,573)
		実績					
進捗状況説明	令和2年度に予定する空調改修工事に向けて、設計を完了することができた。						

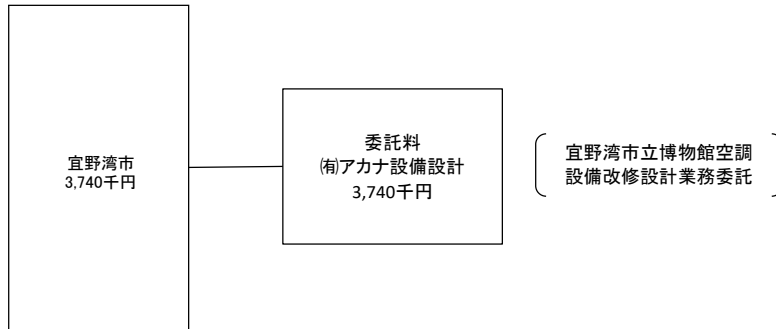
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・新型コロナ・ウイルスによる影響のため、施工の遅れが懸念される。 ※現時点では、令和2年度に計画している工事は予定通り実施できる見込み。</p>	<p>・空調設備改修工事の計画を予定通り実施できるよう、関係部署との連携を密にとり、遅延のないよう進める。 ・館内整備のうち、来館者に快適な利用環境の下、魅力ある企画展示を行い、来館者に学びの充実を図るため、企画展示室の環境整備を計画する。</p>

今後の取り組み方針

・作成した設計を基に、令和2年度に空調設備改修工事を行い、年間のCO2排出量や年間の電気使用量、原油使用料を従来より格段に減らして機能強化を図り、かつ来館者に快適な利用空間を提供することで来館者数の増加を図る。
・企画展示室の整備を計画し、市民や観光客に宜野湾市への理解につながる企画展示が行える環境を整える。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,740	3,740	2,992	748	0



資金の用途の流れ、点検、評価、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札によって業者を選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途は事業目的達成の観点から必要なものなのかなどについて、支出などに関する書類によって確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫	宜野湾市ハートポスト設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	市民経済部 観光農水課	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	平成30年9月16日に引退した安室奈美恵さんの最後の引退ライブを行った市海浜公園が安室ファンの中で聖地となっていることから、「#ALLFOR916」より寄贈されたハートポストを活用した施策を展開し、本市西海岸エリアへの観光客の誘致を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	0	0	0	0	1,289
		(b) 予算現額	0	0	0	0	1,122
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 167
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	0	0	0	0	1,122
		B. 執行済額	0	0	0	0	1,120
		うち交付金充当額	0	0	0	0	896
		次年度繰越額					
		執行率 (%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99.8%
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートポスト(レプリカ)の製作に係る委託料(1,049,760円)とベルトパーテーションの備品購入費(70,400円)。 ・入札残が発生。 						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ハートポスト(レプリカ)の作成	目標	()	()	()	(ハートポストの作成)	
		実績				ハートポストを作成した	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	令和元年9月16日の安室奈美恵引退1周年記念イベントに合わせてハートポスト(レプリカ)を作成し、当日投函サービスを開始。また、ベルトパーテーションの購入を行い、ハートポスト(本物)の展示を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	ハートポストへのハガキ投函数6,000通	目標	()	()	()	(ハガキ投函数)	()
		実績				18,970通	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和元年9月16日、宜野湾市海浜公園にて実施された安室奈美恵引退1周年記念イベントに合わせてハートポスト(レプリカ)を作成し、当日投函サービスを開始した。また宜野湾市観光振興協会では「ハートカード」を作成し販売、さらに日本郵便沖縄支社がハートポストへ投函されたハガキに対し、安室奈美恵さんの肖像が入った特別な消印(小型印)を押印するサービスを開始するなど、市、観光振興協会、日本郵便沖縄支社の三者で「ぎのわんハートプロジェクト」結成し、当事業を実施。ぎのわんハートプロジェクトの会場(宜野湾市海浜公園屋外劇場)には約1万人が訪れ、当日だけで約7,000通のハガキがハートポストへ投函された。						

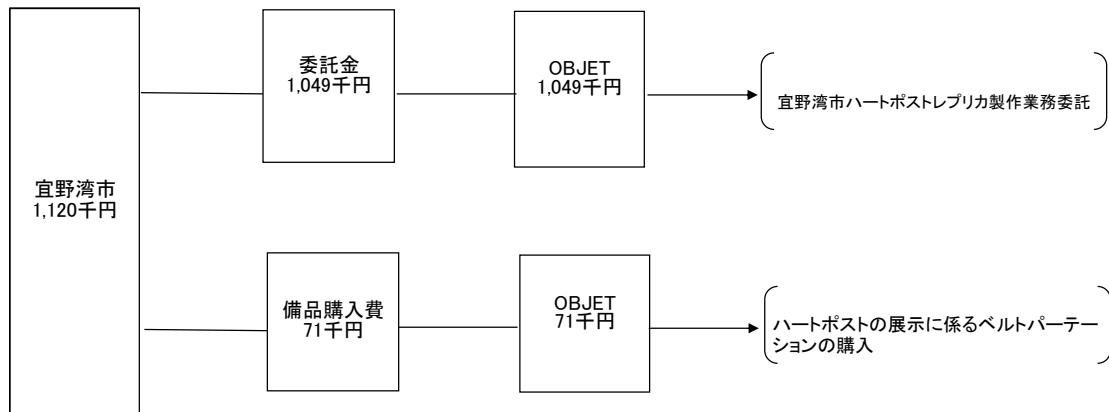
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・当初、各市町村で設置された記念ポストの実績を参考にハガキの投函数の目標を500通/月、6,000/年を設定。しかし、9月16日のイベント時に約1万人の来場者があり、そのうち、7,000通が投函された。</p> <p>・令和元年度はハートポストの設置、ハートカードの作成、販売、小型印のサービスを開始したが、次年度も同様のサービスのみでは来場者への満足度が図れないものと思わる。</p>	<p>・ハートポスト設置事業は単年度事業となっており、令和元年度で完了したが、今後、このハートポストを活用したイベントや活用方法等を検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・ぎのわんハートプロジェクトの活動と連携し、ハートポストが有意義に活用できるよう、ハートプロジェクトの「切手」の開発などの新たな取組みを検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

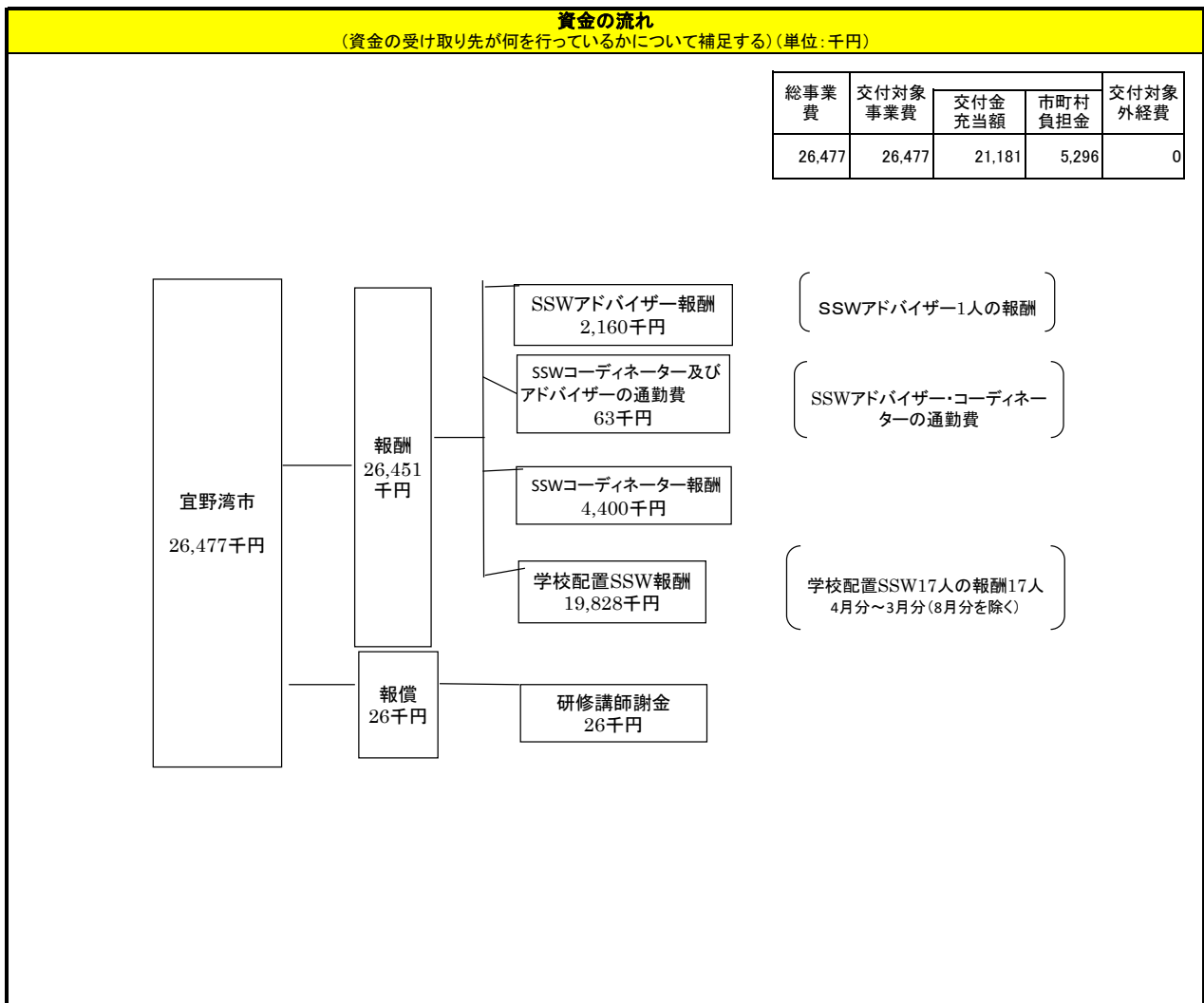
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,120	1,120	896	224	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者との契約は、指名競争入札による選定。</p> <p>○予算規模は、委託業務内容に見合った適正な規模で確保されている。</p> <p>○ハートポストの製作に係る委託業務であるため費目・用途は限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	スクールソーシャルワーカー活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	指導部 青少年サポートセンター	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	スクールソーシャルワーカー等を配置して学校及び関係機関と連携し、課題を抱える児童生徒及びその保護者等に働きかけ青少年が抱える課題改善のため、支援活動を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,252	30,187	30,398	29,834	30,174
		(b) 予算現額	20,613	28,466	27,898	29,434	28,358
		(c) 増減額(b-a)	▲ 639	▲ 1,721	▲ 2,500	▲ 400	▲ 1,816
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		20,613	28,466	27,898	29,434	28,358
	B. 執行済額		18,972	27,889	25,526	28,183	26,477
	うち交付金充当額		15,177	22,311	20,421	22,546	21,181
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.0%	98.0%	91.5%	95.7%	93.4%
予算の状況の説明		年間を通じたスクールソーシャルワーカーコーディネーター等の未配置に伴う不用額(△1,816千円)が生じ、12月補正での減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・青少年サポートセンター配置 SSWアドバイザー(1名) SSWコーディネーター(4名) ・小中学校配置 小学校SSW(9名)／中学校SSW(8名)	目標	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	
		実績	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW17名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW17名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW17名	アドバイザー1名 コーディネーター5名 SSW17名	
	【参考指標】 課題を抱える児童生徒の支援数	目標	(510人)	(680人)	(765人)	(800人)	
		実績	714人	739人	794人	782人	
達成状況説明	・H28年度から全小中学校へSSW(相談指導員)を配置し(各小学校1人、各中学校2人、合計17人)、課題のある児童生徒の支援に取り組んでいる。 ・R1年度の支援の実績は年度当初の目標値に届かなかったが、過去3年の平均からみると児童生徒への支援数は着実に伸びてきている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	不登校児童生徒学校復帰率 ※算出方法 A「学校復帰、学級復帰、未然防止」に占めるB「学校復帰」の割合 例: R01年度 B:18件/A:93件=19.35%	目標	()	(30%以上)	(30%以上)	(30%以上)	()
		実績		27%	30.60%	19.35%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	全体的な支援数の増加に伴い、継続的要支援児童生徒数も増加するため、学校復帰率が低くなっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本事業の学校や保護者への認知の高まりや、子どもを取り巻く環境が年々複雑・多様化する中、ますます活用ニーズが高まっている。しかしながら、待遇面から有資格者の人材確保が難しく、また配置人数分の無資格者雇用さえ厳しい現状がある。</p> <p>・学校現場で本事業の趣旨が理解されるほど、スクールソーシャルワーカーへの期待や任務が増し、従来の雇用形態の枠内(週4日1日6時間勤務)で対応するには限界があり、勤務時間や日数の延長も検討を要する。</p>	<p>・有資格者であるSSWの雇用確保に苦慮してはいるが、児童生徒のニーズに応じた支援につなぐSSWのスキルアップの研修(社会援助技術の基礎・応用・事例検討等)や、センター配置アドバイザーによる個別の指導・助言を行い、全体の底上げにつなげる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・中学校区単位で配置されているSSWコーディネーターが、定期的に学校現場を巡回し、学校配置SSWと情報共有を行うことで、課題を抱える児童生徒の支援を行うとともに、学校支援相談会(年2回開催)を開催することで、学校や関係機関と情報を共有する機会を作り、それぞれの役割に応じた支援体制を確立する。</p> <p>・研修会や連携会議、SSWアドバイザーによる指導・助言をとおして、児童生徒のニーズに応じた支援を行えるよう、SSWの資質・技能の向上を高める。</p> <p>・引き続き、学校に配置されたスクールソーシャルワーカーの必要業務である登校支援、家庭訪問に個人の車両活用等負担軽減に取り組む。</p>		



資金の流 れの点 検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	適応指導教室事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不登校児童生徒の適応指導に関わる調査研究、教育相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習活動及び他校との交流体験活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	3,768	3,728	3,729	3,726	3,737	
	(b) 予算現額	3,768	3,728	3,729	3,726	3,737	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	3,768	3,728	3,729	3,726	3,737	
	B. 執行済額	3,731	3,716	3,646	3,638	3,573	
	うち交付金充当額	2,984	2,972	2,917	2,900	2,858	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.0%	99.7%	97.8%	97.6%	95.6%	
予算の状況の説明	計画どおり事業執行を行ったが、適応指導員が教育実習で休んだため執行率が96.1%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	適応指導教室在籍児童生徒数: 4名	目標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)	
		実績	14名	8名	9名	5名	
達成状況説明	目標	()	()	()	()		
	実績						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		目標	()	(80%以上)	()	()	()
	実績		51%				
	【R1成果目標】 適応指導教室に通級している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 20%	目標	()	()	(20%)	(20%)	()
		実績			0%	0%	
	進捗状況説明	適応指導教室に入級した児童生徒が、日頃の通級や原籍校への登校に結びつくよう、保護者や原籍校の教職員を交え、教育相談会を実施した。また、複数回の家庭訪問を通して、家庭環境についての理解を図りながら、児童生徒や保護者の悩みや不安等を共有し信頼関係の構築に努めた。 しかし、令和元年度は登校復帰に結びついた児童生徒のケースはなく、今後はより一層の原籍校、家庭との連携や登校復帰に向けた連携を密にし、登校復帰にむけた具体的なプログラム作成や効果性のある支援の在り方について検討していく。 【適応指導教室通級及び原籍校登校日数 ※()内は出席すべき日数】 中1A 120 (193) 中1B55 (193) 中2C108(128) 中2D42(73) 中2E 86(100) 中3F81(95) 中3G162(192) 中3H159(192)					

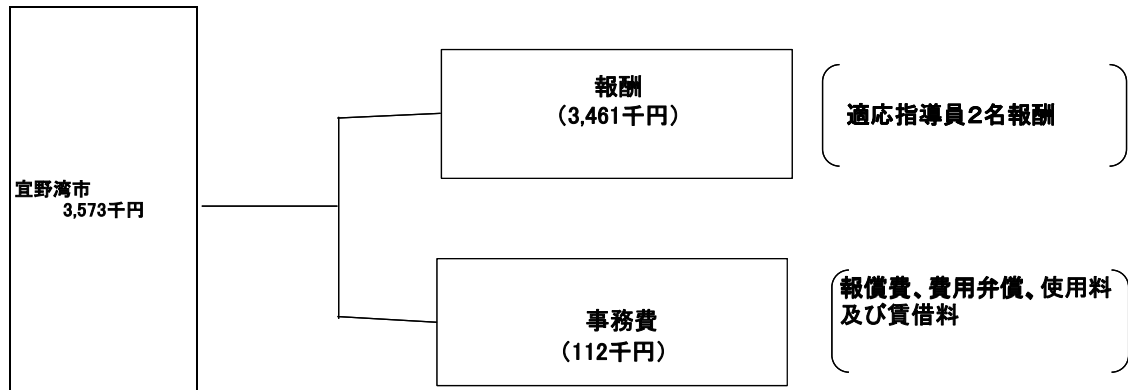
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の市内小中学校の不登校児童生徒数は241名で、前年度より32名増加している。また県に比べ不登校児童生徒の出現率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市の不登校児童生徒の実態について、学校毎の課題を把握する。 年度初めに、研修係長、適応指導教室「若葉」スタッフによる市内小中学校を訪問し本教室の周知を図る。

今後の取り組み方針

- 原籍校や家庭との連携を密にし、児童生徒の登校復帰に向けたプログラムづくりを行う。
- 「若葉教室」スタッフの市内各学校への訪問を通して、「若葉教室」の組織や役割について学校へ周知する。
- 「若葉教室」に入級前の児童生徒の実態把握やアセスメントを行うことにより、多面的な児童生徒理解に努め効果的な支援を行う。
- 今回の新型コロナウイルスの影響による休校時に、児童生徒が通級できなくても、家庭で学べる環境づくりを構築する。
- 学習評価に関しては、他市町村の適応指導教室と連携を図りながら、児童生徒が不利益を被らない評価を工夫する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,592	3,573	2,873	700	19



資金の流 れ、費 用・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③		児童生徒相談事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	指導部 青少年サポートセンター		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
担当部署名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、相談等支援をとおして、不登校等の課題の改善に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,089	10,709	10,752	10,682	10,680
		(b) 予算現額	7,635	10,367	10,752	9,882	10,680
		(c) 増減額(b-a)	▲1,454	▲342	0	▲800	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	7,635	10,367	10,752	9,882	10,680
	B. 執行済額		7,625	10,296	10,710	8,861	10,636
	うち交付金充当額		6,099	8,237	8,568	7,088	8,508
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	99.3%	99.6%	89.7%	99.6%
予算の状況の説明		予算減額(800千円)は青少年教育相談指導員(1人)の未配置期間4~8月分 不用額1,021千円は青少年教育相談指導員(1人)の産休、育休等10月~3月分である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	青少年教育相談指導員3人 臨床心理士配置2人	目標	6人	5人	5人	5人	
		実績	5人	5人	4人	5人	
	【参考指標】 相談受付件数		目標	150人	150人	150人	
①支援を行った不登校児童生徒数 ②支援を行った不登校以外を主訴とした子		実績	149人	116人	125人		
達成状況説明		・今年度は、計画通り、臨床心理士2人、青少年教育相談指導員3人を通年配置することができた。 ・相談受付件数は、目標値を達することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	臨床心理士、青少年教育相談指導員の支援を受けた児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 19% (H31まで/青少年サポートセンターに通所する児童生徒のうち、主訴「不登校」とする児童生徒学校復帰人数 6人)	目標	()	()	()	(19%)	
		実績				13%	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		・適応指導教室や学校復帰・社会的自立につなげるため、小集団活動(体験活動、作品作り等)を開始したことで通級相談等の定着が図られてきた。 ・不登校(登校渋り)を主訴としていた児童生徒の学校復帰は、H30年度5人→H31年度21人となった。 (但し、カウントの方法について変更。例/毎日登校ではなく、前年度1度も登校できなかった児童が数回登校できた場合は学校復帰にカウントしている)					

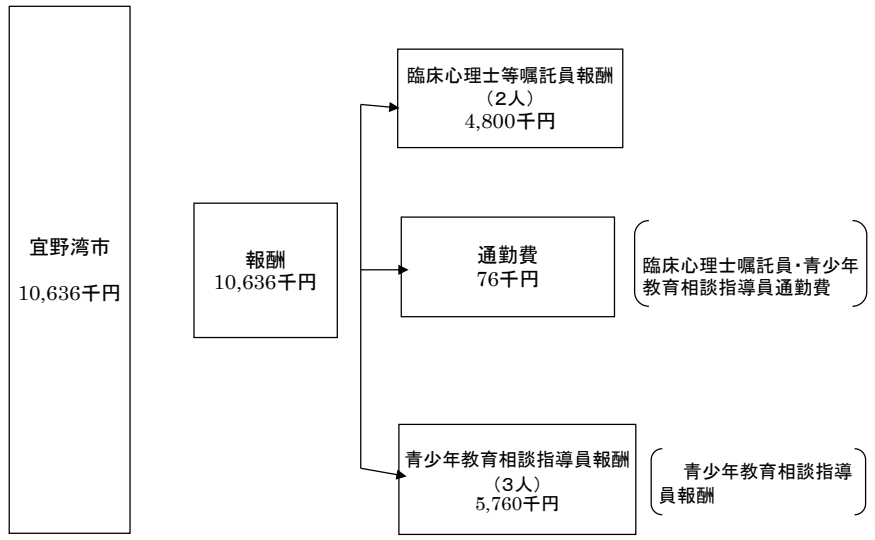
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・相談につながるケースについて、多くは保護者等を含めて多方面での課題を抱えているケースが多い。そのため、学校関係者はじめ福祉部局等と連携した対応が求められる。 ・本事業も子どもを取り巻く環境が年々複雑・多様化する中、事業の重要性が増しているが、対応する職員の大部分が週4日勤務の非常勤であり、相談者の対応で時間を要し、課内での情報共有や関係者との情報共有を行うための時間を調整することも困難である。 ・相談内容について、特にプライバシーの配慮が求められるが、防音機能がないため、設置されている部屋がフル活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者が多方面との関りを持っているケースがあることを念頭に、連携した支援ができるよう、引き続き課題や情報を共有する意識を持つよう取り組む。

今後の取り組み方針

・同係に配置されているSSWグループをはじめ、学校や福祉部局等と情報共有し、困り感のある児童生徒や保護者の支援に取り組む。
 ・不登校等で集団活動から距離のある児童生徒に対し、小集団活動やSST(ソーシャルスキルトレーニング)により、通級相談の定着化に取り組み、学校復帰や社会的な自立につながる支援に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,636	10,636	8,508	2,128	0



資金の流 れの点 検・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘察した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	非行防止等巡回活動事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部署名	指導部 青少年サポートセンター	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	街頭指導員を委嘱し、夜間街頭指導等を実施して、青少年が問題行動に向かう初期の段階に必要な注意、助言、指導を行い、問題行動の未然防止等青少年の健全育成に寄与する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,960	1,960	1,960	1,960	1,960
		(b) 予算現額	1,960	1,817	1,960	1,960	1,960
		(c) 増減額(b-a)	0	▲143	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,960	1,817	1,960	1,960	1,960
		B. 執行済額	1,698	1,624	1,687	1,677	1,834
		うち交付金充当額	1,358	1,299	1,349	1,341	1,467
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	86.6%	89.4%	86.1%	85.6%	93.6%
予算の状況の説明	4月から翌2月までの実績による執行額 予算額と執行済額との差額(261千円)の内訳は、3月報酬分(交付金の精算に間に合わないため、市単費で支出)と4人体制での巡回ができなかった際に生じる報酬の残による執行残となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	深夜はいかいかいする児童・生徒指導件数 500件	目標	400	400	400	500	
		実績	420件	355件	592件	495件	
	【参考指標】 街頭指導員配置数	目標	16人	16人	16人	16人	
実績		16人	16人	16人	16人		
達成状況説明	各中校区から4人を委嘱し、主に夜間巡回指導を市内の公園を中心に、4人1グループの4班体制で週3回の夜間街頭指導を実施。 ・指導件数が前年度より約100件減っているが、概ね目標値に近い数値のため、引き続き夜間街頭指導の時間帯や巡回ポイントを工夫し、深夜はいかいかいから派生する問題行動の未然防止に努め、青少年が事件事故に関わることがないように取り組む。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	夜間街頭指導件数	目標	()	(巡回強化を図る)	(指導件数の多い公園巡回の強化)	622件以下	
		実績		補導件数の多い公園を中心に学校施設の巡回	指導件数前年度比66.8%増	495件	
	【参考指標】 街頭指導員配置・活動人数 16人	目標	()	(16人)	(16人)	(16人)	()
		実績		16人	16人	16人	
進捗状況説明	・巡回箇所については効率よく巡回するため、市内公園と近隣住人からの通報や学校関係職員、警察との情報連携により要請のある箇所に絞り、その都度巡回前に情報整理調整して対応することを引き続き行った。 ・指導員が都合で巡回できなくなった場合、交代要員の確保に努めるよう共通認が図られた。 ・指導件数は前年度に比べて減少しているが、本県は夜型社会と言われており、引き続き非行等の入口と言われる深夜はいかいかいを防止する巡回指導に取り組む。						

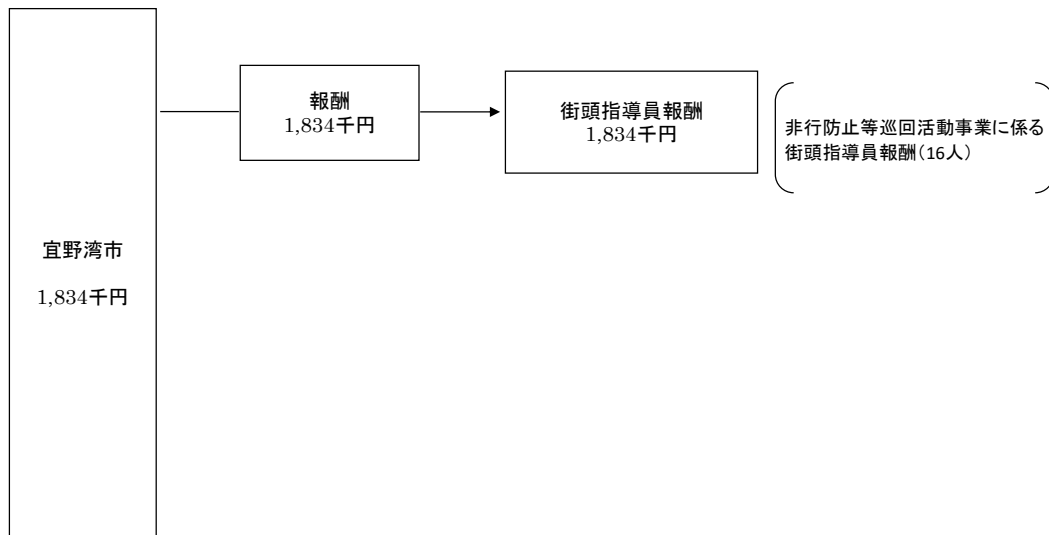
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間街頭指導を中心に巡回業務として実施しているが、非行の未然防止や見守りの観点から街頭指導のニーズは高い。 ・年度末はコロナウィルス感染症対策に伴い、非常事態宣言にともなった学校休校に合わせた巡回の中止、及び巡回車両内が密状態にともなう巡回中止を余儀なくされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回時の児童生徒への夜間巡回に伴った指導件数は、減少傾向にあるが、非行等の入口となる深夜はいかひの街頭指導は、引き続き継続して取り組む。 ・コロナウィルス感染症対策に伴い、巡回時の車両の密状態を回避するため、車両内をカーテン等で仕切ることや、巡回時は車両の窓を開けて密状態を回避するなど、検討を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・青少年の非行防止については、PTAや警察署の補導員協議会、青少年健全育成協議会等、地域の協力を得ながら学校が中心となり推進しており、今後も青少年健全育成の観点から、各関係部署と連携し継続的に対応して行く。
 ・事業を継続して取り組むため、巡回時の車両内の密状態回避対策(カーテンで仕切る、窓を開ける、2台に分ける)に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,834	1,834	1,467	367	0



資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	学習支援員活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部課名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学習に遅れをとっている児童・生徒が自ら学ぶ意欲を高め、小学校において国語と算数、中学校において数学の基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	23,715	23,715	23,716	23,718	23,718	
	(b) 予算現額	23,715	23,715	23,716	23,718	22,620	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1,098	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	23,715	23,715	23,716	23,718	22,620	
	B. 執行済額	23,677	23,445	23,456	23,668	19,983	
	うち交付金充当額	18,941	18,756	18,764	18,934	15,986	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.8%	98.8%	98.8%	99.8%	88.3%	
予算の状況の説明	予算の減額については、途中退職における不補充による残である。 執行残については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校期間の支援員給与を交付金対象外とした為である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	学習支援員の配置:13校13人 小学校9人・中学校4人	目標 (13校13名)	(13校13名)	(13校13名)	(13校13名)		
達成状況説明	年度途中に何校か、辞職者がおり配置できない期間もあったが、概ね目標通り配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 小学校 国語: +4%以上(3年生、5年生のみ) 算数: +3%以上 中学校(1年~2年) 数学: 0%以上	目標	()	()	()	()	宜野湾市総合平均と全国平均との差を小学校は+5%、中学校は±0%。
		実績	県学力到達度調査(小学校) 国語: +2.2ポイント以上 算数: +3.0ポイント以上(中学校) 数学: -1.5ポイント以上	県と本市との平均正答率の差(小学校) 国語: +2.2ポイント以上 算数: +3.0ポイント以上(中学校) 数学: -1.5ポイント以上	県学力到達度調査(小学校) 国語: +2.1ポイント 算数: +2.4ポイント(中学校) 数学: -2.9ポイント	県学力到達度調査(小学校) 国語: +3.0ポイント 算数: +2.8ポイント(中学校) 数学: -1.8ポイント	
	【参考指標】 県学力到達度調査 小学校(国語・算数) 中学校(数学)	目標	()	()	()	()	()
	進捗状況説明	・県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 小学校国語+3.0ポイント、算数+2.8ポイント、中学校数学-1.8ポイント ・成果目標は未達成であるが、昨年度より目標指標に近づいた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・県学力到達度調査の結果を分析し、授業改善に活かす必要がある。 ・小学校において国語、算数ともに学力の向上はみられるが、小中学校の各教科において、「読む能力」「書く能力」の項目に課題がみられる。また、学校間差、学級間差が見られるので、市全体で授業スタイルを統一し、各間差をなくす取組を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力到達度調査の結果分析による実態把握及び本市の各種学力調査の成果と課題について分析を行う。 ・幼小中連携事業を通して、幼小中学校が共通の課題を認識し、言語活動の推進や読解力を向上させる授業づくりについて幼小中学校における学びの連続性の確立が必要である。 ・目標指標にはまだ及んでいない教科もあるが、小学校国語においては3年生で、算数においては5年生、6年生で目標指標をそれぞれ達成しており、中学校においても昨年度より目標指標に近づくと、少しずつ成果が表れている。

今後の取り組み方針

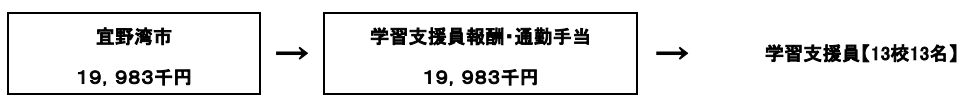
令和2年度までに、宜野湾市総合平均と県平均との差を小学校は+5%、中学校は±0%

上記数値目標を達成するため、毎学期はじめに各小中学校学力推進担当教師研修会を実施し、各中学校区の課題共有と学力向上対策について小中連携した取り組みの方策を立てる。また、それと連動して学習支援員研修会を実施し、今後の取組についての方針を伝える。

【令和元年度成果目標設定の考え方】
過去の実績を参考に設定した。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

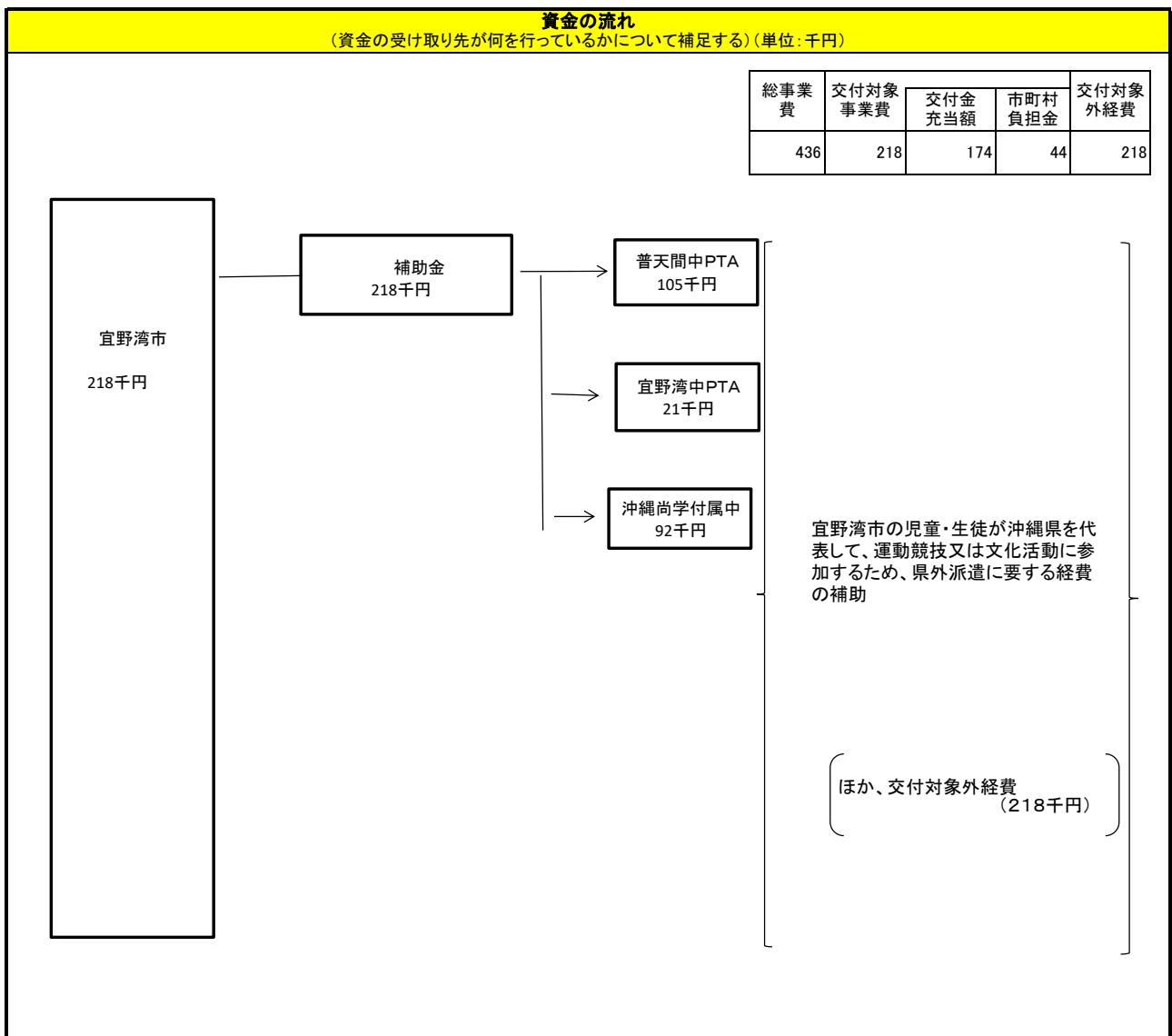
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,983	19,983	15,986	3,997	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	派遣費補助金交付事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	指導部 学務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童・生徒の文化活動及びスポーツを奨励するため、学校教育の一環として県外に派遣される場合に要する旅費等を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,689	4,446	4,026	4,026	2,667
		(b) 予算現額	9,674	3,077	2,650	1,102	551
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,015	▲ 1,369	▲ 1,376	▲ 2,924	▲ 2,116
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	9,674	3,077	2,650	1,102	551
		B. 執行済額	3,945	3,060	2,650	1,102	218
		うち交付金充当額	3,156	2,448	2,119	881	174
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	40.8%	99.4%	100.0%	100.0%	39.6%
予算の状況の説明	各学校に対し当該大会への出場の有無、申請額を事前に確認し、支出額を把握したため、適正に実施できた。当初補助を予定していた管楽器合奏フェスティバル(3月)が、新型コロナウイルス流行の影響により中止となったため、予算現額と執行済額を比較すると334,000円の差額が生じている。						
活動目標(指標)及び達成状況	達成状況						
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	県外派遣された団体への支援を実施	目標 (団体への支援)	(団体への支援)	(団体への支援)	(団体への支援)		
		実績 団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した		
	支援団体数:15団体 (文化活動団体数:5団体、スポーツ活動団体数:10団体)	目標 (文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体)	(文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体)	(文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体)	(文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体)		
	実績 文化活動団体数:4団体 スポーツ活動団体数:7団体	文化活動団体数:4団体 スポーツ活動団体数:8団体	文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:13団体	文化活動団体数:なし スポーツ活動団体数:10団体			
達成状況説明	スポーツ活動団体については計10団体(11名)へ補助を実施できた。文化活動団体については派遣なしであったため補助を実施できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値R2年度	
	【R1成果目標】アンケート調査において、対象児童生徒の視野が広がったとの回答【80%】	目標 ()	()	(80%以上)	(80%以上)	()	
		実績		100%	100%		
	【参考指標】支援団体数	目標 ()	(15団体)	(15団体)	(15団体)	(15団体)	
		実績		12団体	15団体	10団体	
進捗状況説明	・アンケート調査の結果、「お子さんの視野が広がったと思いますか?」との問いに対し、参加人数11人中11人の保護者(100%)が「そう思う」と回答した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校以外の学校へも、年度当初より案内を行い、補助対象の大会を確実に申請できるように周知を行ったが、申請が遅れがちであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等で公立小中学校以外へも補助金の更なる周知を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校以外の学校へ、年度当初より案内を行い、補助対象の大会を確実に申請できるように促す。 ・HP等での周知を図る。 		



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各種目競技において県代表として決定した児童・生徒が在籍する学校(PTA連合会)から実績等を提出させ、内容を精査したうえで、補助金交付決定を行っているので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は過去3年の平均額を計上しており、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○派遣費補助金に関しては、市(教育委員会)で定めている要項に基づき補助額を決定しているため、受益者との負担関係は妥当であると考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時に支出等に関する書類で確認しているため、適正であった。

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-(イ)		
担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨くづくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	スポーツ活動による児童・生徒の健全育成を図るため、一定の基準を満たすスポーツ少年団等の県外派遣を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	2,461	1,195	1,195	2,167	2,261
	(b) 予算現額	2,461	1,195	1,195	2,167	2,261	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,461	1,195	1,195	2,167	2,261	
	B. 執行済額	804	526	399	704	1,130	
	うち交付金充当額	643	420	319	563	904	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	32.7%	44.0%	33.4%	32.5%	50.0%	
予算の状況の説明	令和元年度におけるスポーツ少年団派遣費補助に係る当初予算については、過年度(3年)の執行額(最高額)を計上(対象経費含む)しており、スポーツ少年団の県内大会成績・派遣対象人数等に大きく左右されるため、執行率は対前年度と比較し、増加した。派遣団体に対しては適正な補助を実施することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	県外派遣された団体への支援を実施		目標 (派遣補助)	(派遣補助)	(派遣補助)	(派遣補助)	
		実績	派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	
達成状況説明	令和元年度は、12団体、9競技、102名への補助を行った。県内大会(予選等)成績に左右される側面もあるが、次年度も引き続きスポーツ少年団活動の支援に努めたい。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	県外派遣補助金を交付することによって、保護者の経済的負担軽減、児童生徒の健全育成を図る。		目標 ()	(経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成を図る)	(経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成を図る)	(経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成を図る)	(経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成を図る)
			実績	経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成が図られた	経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成が図られた	経済的負担軽減及び児童生徒の健全育成が図られた	
	【参考指標】補助団体数		目標 ()	(16団体)	(16団体)	(16団体)	(16団体)
			実績	8団体 30名	10団体 38名	12団体 102名	
	【R1成果目標】アンケート調査において、対象児童生徒の視野が広がったか。80%以上		目標 ()	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)
		実績		100%	100%		
進捗状況説明	当初の目標とおり、児童生徒の県外派遣補助金を交付することにより、市内の児童生徒の県外への派遣が推進され、児童生徒の健全育成を図ることができた。なお、成果目標である児童生徒並びにその保護者を対象にアンケート調査を実施し、調査の結果、「視野が広がったか」との問いに対し、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合わせると100%であった。参考:アンケート総数50件中、「そう思う」が38件(76%)、「どちらかといえばそう思う」が12件(24%)であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣費補助金制度の認知度が低く、本市スポーツ少年団への加入促進が必要である。 ・当補助金交付に係る補助対象や補助対象経費が市町村によって異なるため、派遣団体からの要望に対応できない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市スポーツ少年団へ未加入の団体や個人に関しては、加入促進に努める。 ・他市町村との補助対象や補助対象経費の差異をできる限り少なくする必要がある。

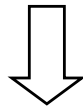
今後の取り組み方針

・円滑な補助金交付に向け、提出書類のチェックリスト等を作成し、本市スポーツ少年団事務局との情報共有等連携を密にしていきたい。
 ・本市補助金交付に係る補助対象及び補助対象経費の見直し等「宜野湾市スポーツ少年団県外等派遣に関する補助金交付要綱」の改正を行い、円滑な補助金交付を実施する。

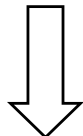
資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,486	1,130	904	226	2,356

宜野湾市
(1,130千円)



宜野湾市スポーツ少年団
補助金(1,130千円)



補助団体

琉球ボクシングジム(100千円)	ハッピー学童クラブ(11千円)
空手道凜道場(103千円)	宜野湾バドミントンジュニア(36千円)
大矢ベースボールクラブ(46千円)	FC琉球U-15(201千円)
宜野湾地区スポーツ少年団剣道部(139千円)	FC琉球U-12(122千円)
沖縄フリッパーズ(54千円)	コザ卓球クラブ(6千円)
宜野湾ボニーズ(156千円)	宜野湾小学校女子ミニバスケットボールクラブ(156千円)

選手1名につき、40,000円、1団体当たり400,000円を補助上限額とし、上限額を超えた場合は、補助対象者の自己負担となる。
 ※同一大会につき、年2回を限度とする。

宜野湾市スポーツ少年団に加入する団体等が沖縄県を代表して、県外大会等に派遣される場合に要する経費の補助

資金の 使途の 流れ、 費目 の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各種競技において県代表など優秀な成績を収めた団体から実績等を提出させ、内容を精査した上、補助金交付決定を行っているため、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、過去3年度分における実績の最高額を計上しており、事業内容に見合った適正な規模となっている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○本市スポーツ少年団県外等派遣に関する補助金交付要綱に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当であると考えます。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については支出に係る書類等を確認後、交付額の確定を行っており、適正であった。

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧ 特別支援教育支援員派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	特別に支援を要する幼稚園、小学校、中学校の幼児児童生徒に対し、特別支援教育支援員を派遣し、臨床心理士や指導員と連携した支援体制の充実を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額		61,067	77,602	82,504	82,476	
	(b) 予算現額		66,537	73,023	76,139	75,964	
	(c) 増減額 (b-a)	0	5,470	▲ 4,579	▲ 6,365	▲ 6,512	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	0	66,537	73,023	76,139	75,964	
	B. 執行済額		63,108	65,173	69,355	69,946	
	うち交付金充当額		50,485	52,139	55,483	55,956	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	#DIV/0!	94.8%	89.2%	91.1%	92.1%	
予算の状況の説明	<p>予算減については未配置の残、及び特別教育支援員の欠勤分によるものである。</p> <p>また、執行残については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校措置により中学校配置支援員への3月休校分給与を交付金対象外とした為である。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特別支援教育支援員派遣(幼稚園:15人、小学校45人、中学校20人)		目標 (76人)	(80人)	(80人)	(80人)	
			実績 75人	71人	71人	71人	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<p>目標人数には達する事が出来なかったが、支援の必要性の高さに応じ適切に配置できるよう努めた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	対象となる幼児児童生徒の保護者のアンケートで、特別支援教育支援員の対応への満足度80%以上を目標とする。		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	87%	83%	89%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	<p>満足度評価89%と目標を上回っている。支援員の配置実数は不足しているが、きめ細かく支援を行うことで満足度89%を達成できたと思われる。</p>						

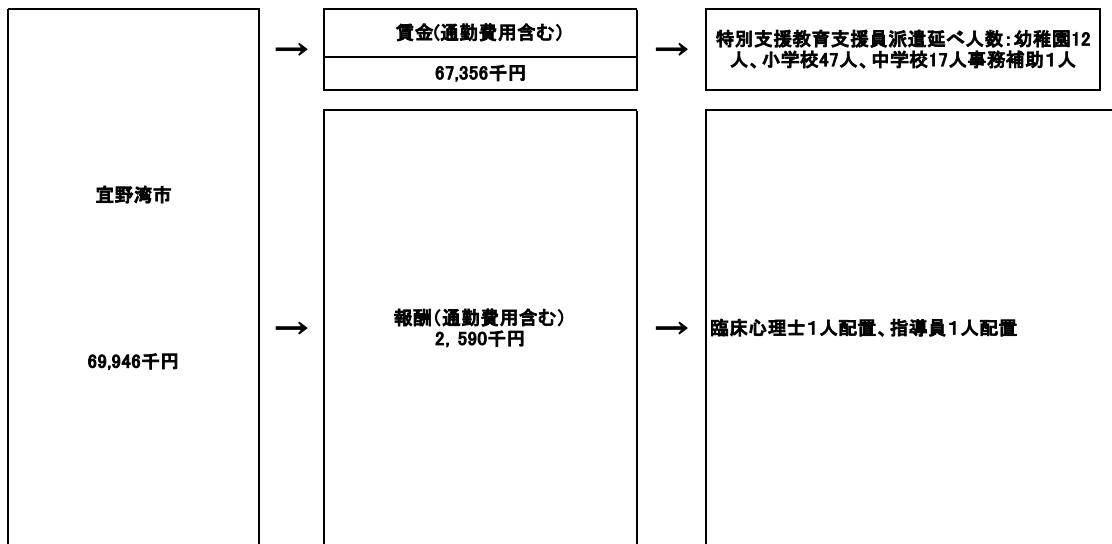
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・各学校からの特別支援教育支援員派遣申請により、特別支援教育支援員を配置している。派遣申請は平成30年度510件、平成31年度654件となっており、派遣申請件数は年々増加している。学校現場の状況から支援員を80名配置する予定であったが、慢性的な人材不足により、公募しても支援員を確保することが難しい状況である。</p>	<p>・支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しているが、特別支援教育支援員の応募者が少ないため十分な配置ができていない。他市の状況も踏まえて公募の方法を検討し、安定的な人材確保に努める。</p> <p>・特別支援教育支援員へアンケートを行い、雇用継続へつなげていく。</p> <p>・子ども一人一人の教育的ニーズに合った支援をするためには、教職員や支援員の資質向上を図る必要がある。そのために研修会の内容を適宜工夫し、継続して行う。</p> <p>・特別支援教育コーディネーターや担任との共通理解を図ること重要であるため、園や各学校で情報交換を密に行う。</p>

今後の取り組み方針

- ・特別支援支援員の安定的な人材を確保するため、ホームページや職安等を活用して求人募集を行う。
- ・特別支援教育支援員の資質向上を図っていくために、研修会の内容を工夫し、継続して行う。
- ・特別支援教育の充実を図るため、今後も継続して学校や関係機関、保護者と連携を図る。
- ・対象となる幼児児童生徒の学校アンケート、保護者アンケートで、引き続き特別支援教育支援員派遣事業への満足度80%以上を目指していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
69,946	69,946	55,956	13,990	0



資金の流 れ、 点 検 、 評 価 ・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	歴史公文書等整理・活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	歴史的価値を有する宜野湾市(村)の公文書等を整理し、公開基準に沿って順次、公開を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,257	4,420	11,782	23,121	22,502
			3,975	4,420	11,548	22,915	22,294
			▲ 282	0	▲ 234	▲ 206	▲ 208
			-	-	-	-	-
			3,975	4,420	11,548	22,915	22,294
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		3,973	4,356	11,522	22,812	22,167
			3,178	3,485	9,217	18,249	17,835
			0	0	0	0	0
			99.9%	98.6%	99.8%	99.6%	99.4%
予算の状況の説明	補正にて、委託料の執行残額208千円を減額した。 このほか、嘱託員の通勤費用、専門委員の報酬などで計126,586円の不用額があるものの、計画通り執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・歴史的価値を有する公文書等の整理:250冊	目標	(250冊)	(250冊)	(250冊)	(250冊)	
		実績	308冊	254冊	250冊	250冊	
	・公文書の一部公開	目標	(公開に向けた基準づくり)	(公開に向けた基準の検討)	(公開基準の確定)	(公文書の一部公開)	
実績		公開に向けた基準作りを行った	公開に向けた基準の検討委員会を立ち上げた	公開に向けた基準を確定させた	歴史公文書利用を周知するコンテンツを作成し、一部を公開した		
達成状況説明	・公文書整理は、目標の実績を達成することができ、所蔵文書の約8割にあたる1,845冊の整理を終えている。 ・公開基準に沿って個人情報などのマスキングを行ったものから順次公開を行い、計8冊の公開を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	アンケートを実施し、市の歴史や文化への理解が深まったか(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(ー)	(80%)	(80%以上)	(80%以上)
		実績	/	ー	100%	83%	/
		目標	()	()	()	()	()
実績		/				/	
進捗状況説明	・資料利用者へアンケートを実施し、8件中回収した6枚のアンケート結果で、5段階評価で3「普通」が1件、5「良い」が5件であった。そのため、「市の歴史や文化への理解が深まった」割合は、83%となった(「市の歴史や文化への理解が深まった」評価を4以上とした)。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの公開を開始したが、個人情報のマスキング作業に時間を要するため、公開可能な公文書の冊数を早急に増やすことは難しい。 ・昨年度のアンケート回収率は約4割だったが、アンケート回答への理解を求め、回収率を約8割に上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書の公開は、円滑に進めるために個人情報が少ない、かつ重要な資料を優先して選定する。 ・公文書公開に係るマスキング作業には時間を要するため、登録作業をこれまでの目標250冊から150冊に減らして、公文書の公開作業が滞らないようにする。

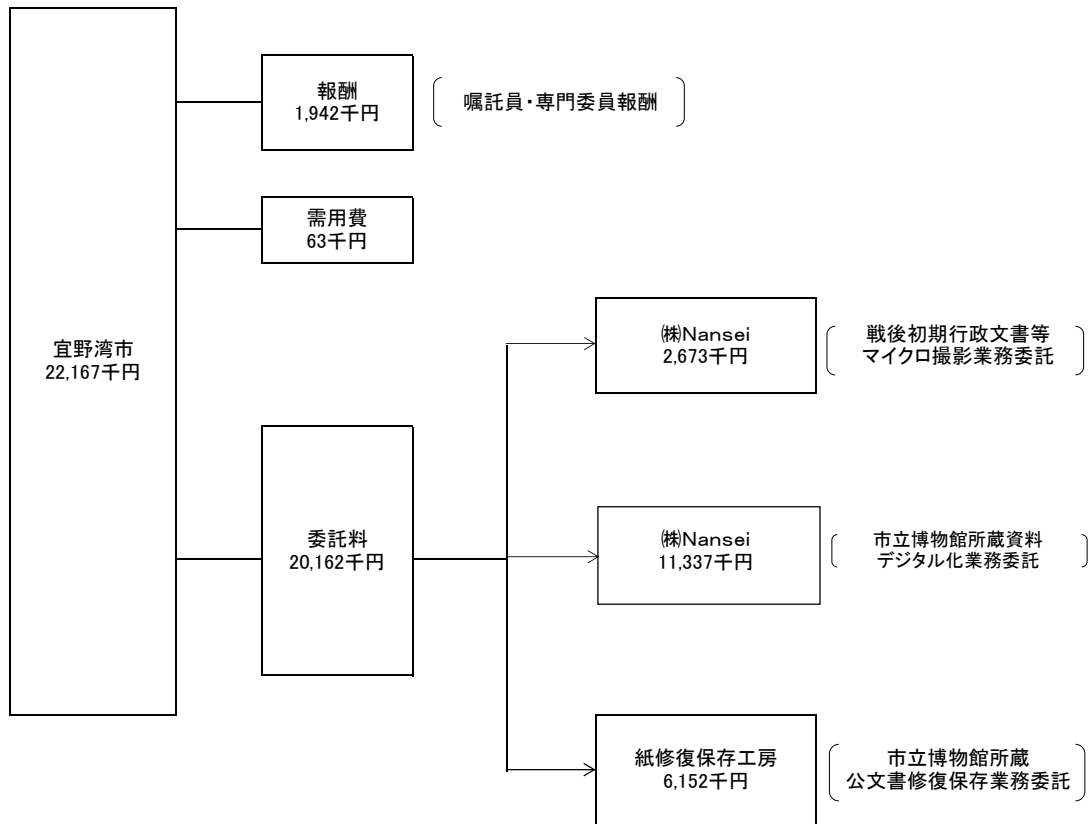
今後の取り組み方針

・公文書の公開活用を優先して進めるために、登録作業の目標を減らし(登録作業を進める中で、登録対象外となる公文書の数が当初の予測より多かったことから、目標冊数を減らしても令和3年度中までに対象となる公文書の登録を終わらせることができる見込み)、マスキング作業に時間を費やし、できるだけ公開できる公文書の冊数を増やして順次公開する。

・市報やホームページ、博物館のフリーペーパーなどで公文書の利用を促し、アンケートについては回収率が下がらないように先方との連絡を迅速かつ丁寧に行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
22,167	22,167	17,835	4,332	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札によって業者を選定し、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途は事業目的の達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	平和市民啓発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-7		
担当部署名	企画部 市民協働推進課	事業実施(予定)年度	H24～R3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	<p>・全国の青少年と交流し、命の尊さや平和意識について学ぶため、長崎で開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に市内中学生8名を派遣する。</p> <p>・戦争の悲惨さ、平和の大切さを市民に啓発するため、市内中学校と市内商業施設等で平和祈念事業を実施する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,331	3,499	3,961	3,958	3,712
		(b) 予算現額	3,331	3,499	3,961	3,958	3,712
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	3,331	3,499	3,961	3,958	3,712
		B. 執行済額	3,329	3,498	3,846	3,844	3,642
		うち交付金充当額	2,662	2,797	3,076	3,075	2,913
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	97.1%	97.1%	98.1%
予算の状況の説明	<p>・平和学習派遣事業、平和祈念事業ともに当初計画していた事業内容を全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算残は、プロポーザル方式による委託契約の執行残と不用額による。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	平和学習派遣生徒数	目標	(平和学習派遣実施)	(平和学習派遣実施)	(平和学習派遣実施 8人)	(平和学習派遣実施 8人)	
		実績	平和学習派遣実施 8人	平和学習派遣実施 8人	平和学習派遣実施 8人	平和学習派遣実施 8人	
	平和祈念事業を行う	目標	(4回)	(5回)	(5回)	(5回)	
		実績	4回	5回	5回	5回	
達成状況説明	<p>・市内公立4中学校から推薦を受けた生徒8名を長崎へ派遣した。</p> <p>・市内公立4中学校において、ひと学年を対象に平和学習及び平和劇を上演するとともに、長崎派遣生徒による報告も行った。</p> <p>・市内商業施設において、平和に関するイベント(長崎派遣生徒による報告会、平和劇、パネル展)を開催した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		目標	()	(8人)	(8人)	(8人)	()
	平和学習派遣生徒数:8人	実績		8人	8人	8人	
		目標	()	()	(80%)	(80%)	()
	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴収し、「平和に対する理解が深まった」割合を80%以上にする。	実績			91%	97%	
		進捗状況説明	<p>・市内公立4中学校から推薦を受けた生徒8名を長崎に派遣した。</p> <p>・派遣後、長崎で学んだ戦争の悲惨さ、平和の大切さを、各中学校や市内商業施設で開催した平和祈念事業に出演し、報告・発表を行った。</p> <p>・市内商業施設において、平和に関するイベント(長崎派遣生徒による報告会、平和劇、パネル展)を開催した。</p> <p>・中学校、市内商業施設での平和祈念事業においてアンケート調査を実施し、約8割以上の方々から事業内容について「とてもよかった」との回答を得た。(アンケート結果:「よい」「とてもよい」あわせて約97%)</p>				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>戦後75年を迎え、戦争体験者も減少する中、日本で唯一地上戦のあった沖縄戦を風化させることなく、いかに平和を継承していくかが課題である。</p> <p><平和学習派遣事業> ・目標は達成しているが、本事業において派遣した生徒の活用は単年度のみとなっている。</p> <p><平和祈念事業> ・本事業に参加した生徒及び市民からのアンケート(対象約1,000人)では「よかった」と回答する割合も多く啓発効果も高くなっている。</p>	<p><平和学習派遣事業> ・今後も継続して平和行政に係るイベントに参加していただけるような人材育成と環境を整えていく。</p> <p><平和祈念事業> ・さらに、広く市民の平和意識の高揚に繋がるよう、様々な手法での啓発を検討していく。</p>

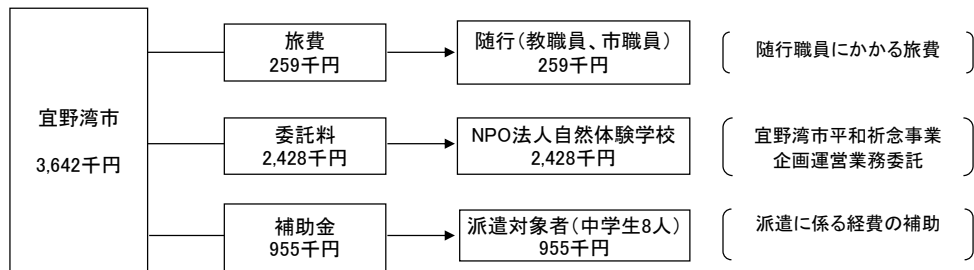
今後の取り組み方針

・平和学習派遣事業については、今後も安定的に平和行政を推進していくため、中学生に加えて青年層を長崎に派遣するとともに、「平和大使」を任命し、今後の平和に係るイベントに参加しやすくなるような環境を整えていく。

・平和祈念事業については、広く市民の平和意識の高揚に繋がるよう、プロポーザル方式での委託契約方法やイベントの実施方法等様々な手法を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,708	3,642	2,913	729	66



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先選定については、市内中学校長より推薦された生徒であり、また、委託先選定についても、プロポーザル方式により決定した業者で、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の1.9%以内となり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である市内中学生に対しては、「宜野湾市平和学習派遣事業補助金交付要綱」に基づき、派遣費の全額を補助しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、事業目的達成のために必要なものに補助しており、支出は適正であった。

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	小学校英語教育課程特例校事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)及び日本人英語教師(JTE)を小学校に派遣し、学力(英語)の向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	48,801	48,801	48,801	48,801	48,800
	(b)予算現額	47,919	49,246	47,997	48,801	48,800	
	(c)増減額(b-a)	▲882	445	▲804	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	47,919	49,246	47,997	48,801	48,800	
	B.執行済額	46,489	46,703	44,406	45,782	44,012	
	うち交付金充当額	37,191	37,362	35,525	36,625	35,209	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.0%	94.8%	92.5%	93.8%	90.2%	
予算の状況の説明	執行残については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校措置期間についての給与を交付金対象外としたためである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	ALT(外国人英語指導助手)及びJTE(日本人英語教師)を配置:全小学校(9校)ALT9人	目標 (9校中9名)	(9校中9名)	(9校中9名)	(9校中9名)		
	実績	9校中9名	9校中9名	9校中9名	9校中9名		
	ALT(外国人英語指導助手)及びJTE(日本人英語教師)を配置:全小学校(9校)JTE9人	目標 (9校中9名)	(9校中9名)	(9校中9名)	(9校中9名)		
	実績	9校中9名	9校中9名	9校中9名	9校中9名		
達成状況説明	予定通り、市内9小学校にALT9名、JTE9名(各校1人ずつ)を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	①小学1年生~4年生:英語による質問4項目に対する平均正答率84%以上	目標 ()	小学1~4年平均正答率81%以上 小学5.6年全国と本市との平均正答率の差+1.6ポイント以上	小学1~4年平均正答率81%以上 小学5.6年全国と本市との平均正答率の差+1.6ポイント以上	①小学1~4年平均正答率84%以上 ②小学5年生ブロンズコース総合平均正答率89%以上、6年生シルバーコース総合平均正答率84%以上	①小学1~4年平均正答率85%以上 ②小学5年生ブロンズコース総合平均正答率89%以上、6年生シルバーコース総合平均正答率84%以上	
	②小学5年生ブロンズコース総合平均正答率89%以上、6年生シルバーコース総合平均正答率84%以上	実績	小学1~4年平均正答率86.5% 小学5.6年全国と本市との平均正答率の差+2ポイント	小学1~4年平均正答率86.5% 小学5.6年全国と本市との平均正答率の差+1.3ポイント	①小学1~4年平均正答率87% ②小学5年生ブロンズコース総合平均正答率89.4%、6年生シルバーコース総合平均正答率83.8%		
	【参考指標】 小学校児童英語検定受験者数の増 H26年度は1,999人の受験者数 H27年度は1,995名の受験者数 H28年度は1,947名の受験者数	目標 ()	(2,000名)	(2,000名)	(2,000名)	(2,000名)	
	実績		2,047名	2,022名	2,044名		
	進捗状況説明	・小学1~4年英語質問4項目の平均正答率87%となり目標を達成した。 ・小学5.6年児童英語検定の正答率が全国平均と比べ、小学校5年生のブロンズコースは+0.4%、6年生のシルバーコースで-0.2%であり、小学校全体では全国平均を+0.1%上回った。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きALT・JTEの授業力向上に取り組むとともに、授業における学級担任との連携を密にする必要がある。 小学6年生の「会話」分野に落ち込みがある。また、他学年の結果を分析する必要がある。 ALT、JTEの継続確保に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任やALT・JTEを対象とした研修会、指導主事による授業参観、検証授業の実施を検討する。 小学6年生の「会話」分野の授業カリキュラムを検討するとともに、他学年の結果分析を行う。 途切れなくALT、JTEを配置できるよう、面接時に継続の意思を確認する。 令和元年度においても、授業内容の検討及び他学年の結果分析を行っており、次年度においても引き続き検証する。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 授業力の質の向上のために、学級担任やALT・JTEを対象にした研修会において「会話」分野の改善を図るような内容を実施し、市全体で統一した指導が実践できるようにする。 授業において、学力向上に効果的な学級担任とALT・JTEの連携について指導助言を行う。 小学6年生の英検Jrにおける「会話」分野の改善に向けて、発音や発声などの授業カリキュラムを盛り込むとともに、1～4年の英語質問4項目や小学5,6年の児童英検の結果分析により実態を把握し、その改善に向けた具体的な指導助言を行い授業力向上に生かす。 面接時に継続勤務の意思確認を行い、ALT、JTEの長期勤務の実現を図る。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	44,012	44,012	35,209	8,803	0
	<pre> graph LR A[宜野湾市 44,012千円] --> B[賃金(通勤費用含む) 41,168千円] A --> C[報酬(通勤費用含む) 2,844千円] B --> D["[ALT(外国人英語指導助手 小学校9校9名) JTE(日本人教師):小学校9校9名]"] C --> E[ALT・JTEコーディネーター 1名] </pre>				
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。		
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	外国人教師招致事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)を中学校に派遣し、学力(英語)の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	10,213	10,213	10,213	10,213	10,213	
	(b) 予算現額	9,997	10,213	10,213	10,300	10,213	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 216	0	0	87	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	9,997	10,213	10,213	10,300	10,213	
	B. 執行済額	9,578	9,863	9,350	9,841	9,534	
	うち交付金充当額	7,662	7,890	7,480	7,872	7,627	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	95.8%	96.6%	91.5%	95.5%	93.4%	
予算の状況の説明	適切な人員配置・割り振りができた。 執行残については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校措置期間についての給与を交付金対象外とした為である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ALT(外国人英語指導助手)の配置 :全中学校(4校) (各中学校1人配置)	目標	(4校中4名)	(4校中4名)	(4校中4名)	(4校中4名)	
	実績	4校中4名	4校中4名	4校中4名	4校中4名		
達成状況説明	当初予定通りの人員の配置ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	【R1成果目標】 沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 ・中学校英語 +1ポイント以上	目標		()	1ポイント以上	1ポイント以上	1.5ポイント以上
		実績			1.4ポイント	0.8ポイント	
	中学校英語検定受験率 3級以上の受験率を60% 5級合格率86%	目標		受験率:60% 合格率:86%	受験率:60% 合格率:86%	受験率:60% 合格率:86%	受験率:60% 合格率:86%
		実績		受験率:55% 合格率:93%	受験率:61% 合格率:87%	受験率:58% 合格率:78%	
	【参考指標】 中学校英語検定受験者数の増 (H27年度も約1,102人の受験者数)	目標	()	(1,500名)	(1,500名)	(1,500名)	(1,500名)
		実績		1,241名	1,389名	1,525名	
進捗状況説明	中学校英語検定受験率 ・英検3級以上の受験率が2%及ばなかった。また、5級合格率も8%及ばなかった。 沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 ・中学校英語 +0.8ポイントとなり、目標達成できなかった。						

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	学校ICT活用指導支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	ICTを活用した視覚にうったえる分かりやすい授業の展開や児童生徒の情報活用能力向上を図るため、ICT活用支援員を学校へ派遣し、ICT(教育用PC、電子黒板及びプロジェクター、デジタル教材など)を授業で活用できるよう支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a)当初予算額	5,346	5,346	5,354	5,362	5,328	
	(b)予算現額	5,346	5,346	5,354	5,362	5,328	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	5,346	5,346	5,354	5,362	5,328	
	B. 執行済額	5,217	5,223	5,004	5,226	5,291	
	うち交付金充当額	4,173	4,178	4,003	4,180	4,232	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.6%	97.7%	93.5%	97.5%	99.3%	
予算の状況の説明	計画どおり事業執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・情報夏期講習会 9回 ・情報教育研究会検証授業 4回	目標	情報夏期講習(8回、検証授業)13回実施	情報夏期講習(8回、検証授業)13回実施	情報夏期講習(8回、検証授業)13回実施	情報夏期講習(8回、検証授業)4回実施	
		実績	13回 13回	8回 4回	4回 4回	13回 4回	
	・ICT活用主任嘱託員1名・補助員1名の配置	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		2名	2名	2名	2名		
達成状況説明	・情報夏期講習会を全小中学校13校実施した。 ・情報教育研究会検証授業を4回実施した。 ・ICT活用主任嘱託員1名、補助員1名を配置し、ICT活用主任嘱託員でICT研修を企画・実施、ICT利活用の情報収集、学校の現状調査を行い、ICT活用補助員で、ICTを活用した授業の支援とICT機器の障害対応を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	授業にICTを活用して指導できる率:80%以上	目標	()	()	()	()	()
		実績		小学校:82% 中学校:77%	小学校:87% 中学校:85%	小学校:91% 中学校:72%	
	ICT機器活用により、授業が分かりやすかったと答えた児童生徒の割合小学校70%以上、中学校80%以上	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		小学校:93% 中学校:88%	小学校:89% 中学校:89%	小学校:91% 中学校:91%	
進捗状況説明	・授業にICTを活用して指導できる率は、令和元年度は平成30年度と比較して小学校は3ポイント上昇し91%、中学校は7ポイント減少し72%になり、小学校は目標の80%以上になったが、中学校は目標の80%以上にはならなかった。 ・ICT機器活用により、授業がわかったと答えた生徒の割合は、令和元年度は平成30年度と比較して小学校は3ポイント上昇し91%、中学校は3ポイント上昇し91%になり小学校、中学校とも目標の80%以上になった。						

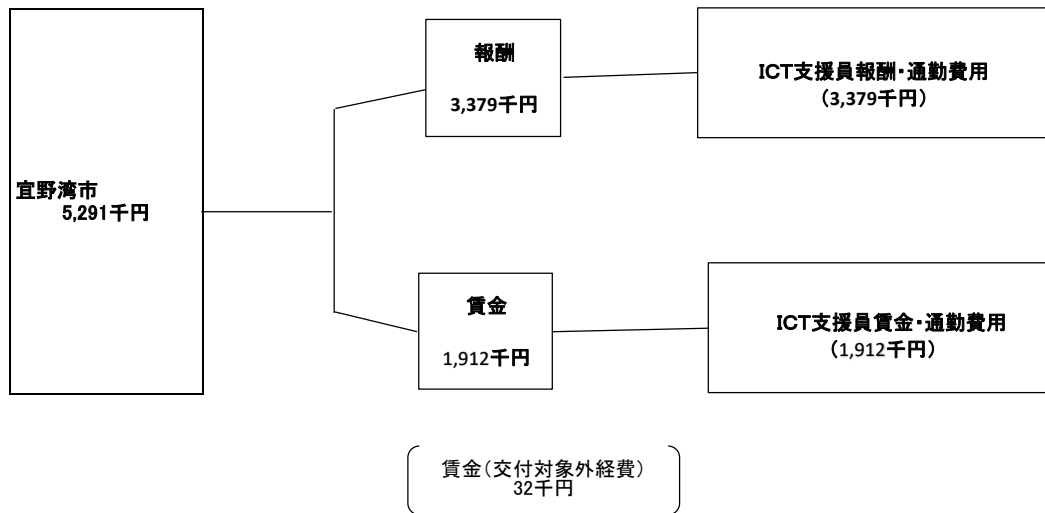
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にICTを活用して指導できる率が中学校では、目標の80%以上にはならなかった ・今年度に小学校に電子黒板、書画カメラ等のICT機器が整備されたが、整備率は50%で全ての教室に整備することができず、利活用に制約がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で授業にICTを活用して指導できる率が下がった要因を分析する。 ・小学校への電子黒板の更なる整備が必要である。

今後の取り組み方針

・ICTの研修を更に充実させる。
 ・小学校への電子黒板の更なる整備を検討する。電子黒板等の研修をICT活用主任嘱託員が計画し実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,323	5,291	4,232	1,059	32



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものが等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	ICT機器活用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	文部科学省が公表した「教育情報化ビジョン」並びに「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」に基づき、小学校の普通教室、特別教室等に電子黒板、書画カメラ、教材等送受信装置等のICT機器を導入し、授業でICT機器が活用できる環境の整備を行う。電子黒板等のICT機器をより効果的に活用できる環境を整備するため、校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備をする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額					184,499	
	(b) 予算現額					182,238	
	(c) 増減額 (b-a)		0	0	0	▲ 2,261	
	(d) 繰越額	-				-	
	A. 計 (b+d)		0	0	0	182,238	
	B. 執行済額					180,319	
	うち交付金充当額					144,255	
	次年度繰越額					0	
	執行率 (%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	98.9%
予算の状況の説明	計画どおり事業執行を行ったが、入札により入札残がためため執行率が98.9%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	市内小学校へICT機器の整備を行う 電子黒板、書画カメラ、教材等送受信装置等	目標	()	()	()	(電子黒板、書画カメラ、教材等送受信装置等)	
		実績				電子黒板、書画カメラ、教材等送受信装置等	
	校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備を行う	目標	()	()	()	(校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備を行う)	
		実績				校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備を行った	
達成状況説明	・市内公立9小学校、はごろも学習センターに電子黒板171台、書画カメラ171台、教材等送受信装置40台等を整備した。 ・電子黒板等のICT機器をより効果的に活用できる環境を整備するため、校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備をした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	授業にICTを活用して指導できる率:80%以上	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				91%	
	ICT機器活用により、授業がわかったと答えた児童の割合:80%以上	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				91%	
進捗状況説明	市内公立9小学校に電子黒板、書画カメラ、教材等送受信装置等を整備することにより、教員が授業にICTを活用して指導できる率は、91%になり、また、ICT機器活用により、授業がわかったと答えた児童の割合も、91%になった。						

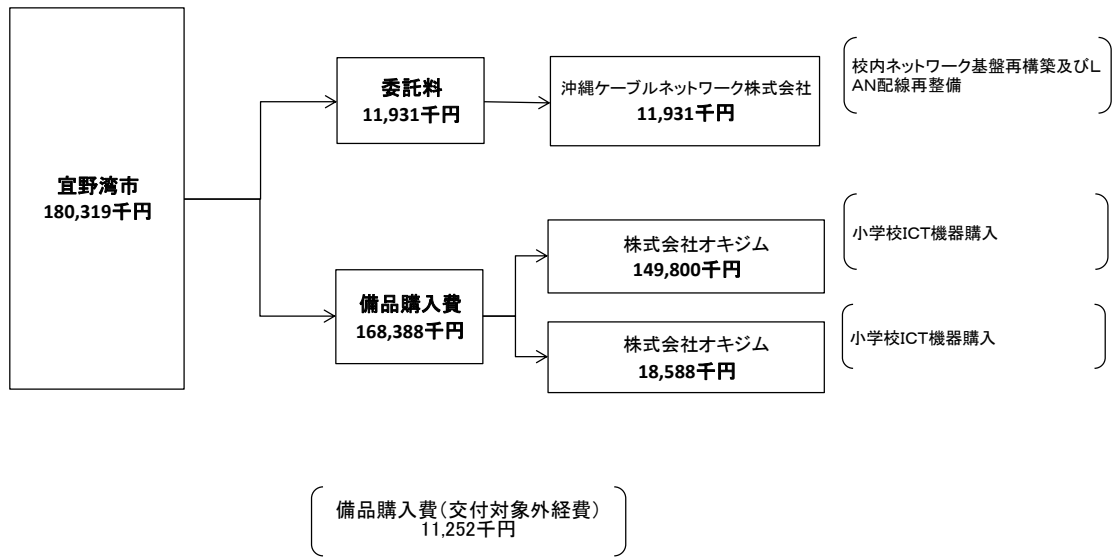
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 市内公立9小学校に電子黒板、書画カメラを整備したが、全ての教室に整備することができず整備率は50%で、利活用に制約がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板、書画カメラの利活用を小学校への電子黒板の更なる整備が必要である。

今後の取り組み方針

- ・小学校への電子黒板の更なる整備を検討する。
- ・電子黒板、書画カメラ等のICT機器を授業での活用を推進するため、授業での効果的な活用場面の紹介や教職員への個別研修を充実させる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
191,571	180,319	144,255	36,064	11,252



資金の流 れ、点 検、 費 目・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者、備品供給業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑥ 中学校短期海外留学派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成31～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	本市教育目標「創造性・国際性に富む人材の育成」に向けて、生活体験を通じた異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上をめざし、国際性と国際的視野の育成を図るため市在住の中学生を短期海外留学に派遣した。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額					9,200	
		(b) 予算現額					9,200	
		(c) 増減額 (b-a)					0	
		(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)						9,200	
	B. 執行済額						9,200	
	うち交付金充当額						0	
次年度繰越額								
執行率 (%) (B/A)						100.0%		
予算の状況の説明		当初計画どおり市内中学生10名を海外留学に派遣したが、補助金の清算に関し、証拠書類の整理・確認が不十分であったため、交付金は充当していない。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	市内中学生10名をアメリカ合衆国へ留学派遣する。	目標	()	()	()	(市内中学生 10名)		
		実績				市内中学生 10名		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	平成31年度宜野湾市中学生英語ストーリーコンテストの上位入賞者及び教育委員会推薦者、計10名をアメリカ合衆国へ留学派遣した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()				80%以上	
		実績					100%	
		目標	()	()				
		実績						
	進捗状況説明	留学生の保護者へアンケートを実施し、約10割の方々から「帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた」との回答を得た。(アンケート結果、「帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた」約100%)						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な留学体験を計画・実施できる業者の選択。 	<ul style="list-style-type: none"> 業者選定の仕方を工夫し、留学先での行程の充実の改善と図る。

今後の取り組み方針

- ・プロポーザル形式での旅行者選定を行い、短期海外留学派遣事業の趣旨のもと、安心・安全で充実した内容を留学体験で提供できるよう努める。
- ・渡航先での生活や行動をより一層充実したものにするため、留学前の事前学習を充実させる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,200	9,200	0	9,200	



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・支出先については、英語コンテスト上位入賞者と、市内中学校及び市教育委員会推薦者であり、妥当であったと考えている。 ・不用額はなく、予算規模は適正である。 ・受益者である市内中学生に対し「宜野湾市短期海外留学派遣補助金交付要綱」に基づき、派遣費を補助している。 ・費目、使途については、航空運賃、留学先滞在費等、事業目的達成のために必要なものに補助している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①		市民防災事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
	総務部市民防災室		事業実施(予定)年度	平成27年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
担当部署名						Ⅲ-10-(2)	
事業内容	宜野湾市地域防災計画に基づき、災害に強いまちづくりの推進により、災害時の食料及び飲料水を確保し適切な被災者支援を行う。自主防災組織を強化して、地域防災力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	15,401	5,331	7,986	41,418	6,123
	(b) 予算現額	10,449	4,688	7,392	22,755	5,064	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 4,952	▲ 643	▲ 594	▲ 18,663	▲ 1,059	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	10,449	4,688	7,392	22,755	5,064	
	B. 執行済額	10,442	2,687	6,993	22,755	5,064	
	うち交付金充当額	8,354	2,149	5,594	18,204	4,051	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.9%	57.3%	94.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	予算の減額1,059千円の理由は、備蓄食糧購入額が入札による減額や避難所簡易トイレが他補助事業で購入が認められ計画変更(減額)になった事による。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	5,500食の備蓄食糧を備蓄する。 552Lの保存水を備蓄する。 避難所へ簡易トイレを整備する。	目標	(4,000食)	(5,500食 保存水552L)	(5,500食 保存水552L)	(5,500食 保存水552L)	
		実績	4,000食	5,500食 保存水552L	5,500食 保存水552L	5,500食 保存水552L	
	市が認定した自主防災組織への資機材整備の支援を行う。	目標	(1団体)	(1団体)	(2団体)	(2団体)	
実績		1団体	1団体	2団体	2団体		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄食糧として、アルファ化米5,500食、保存水552Lを購入、非常災害時への備えを行った。 ・宜野湾市自主防災組織補助金交付要綱に基づき、市長が認定した自主防災組織に各団体1回限り、上限2百万円の防災資機材整備補助金の交付を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
		保存食及び保存水の備蓄 ・R1年度備蓄食糧 備蓄率93% ・R1年度保存水 備蓄率19% 避難所トイレの購入	目標	()	(食料58% 保存水 17%)	(食料75% 保存水 19%)	(食料93% 保存水 19%)
		実績		食料55% 保存水2%	食料75% 保存水3.9%	食料89% 保存水5.9%	
	②自主防災組織への資機材整備完了(2団体)	目標	()	(35%)	(2団体)	(2団体)	()
		実績		33%	2団体	2団体	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市地域防災計画に基づき避難所内最大避難者数3,071名×3食×3日=27,639食を5ヵ年かけて備蓄する。R1年度は5,500食備蓄。(食糧89%、保存水5.9%) ・宜野湾市自主防災組織補助金交付要綱に基づき、市長が認定した自主防災組織に各団体1回限り、上限2百万円の防災資機材整備補助金を交付。(R1年度は、喜友名区、嘉数ハイイツ区自主防災会) 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【備蓄食糧関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファ化米は目標とする備蓄数量の未達(例年同様) ・アレルギー対応食、ハラル食、乳幼児食など、近年、表出している様々な食糧ニーズへの対応 <p>【自主防災組織関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織未結成自治体の防災資機材欠如(例年同様) ・新型コロナウイルス禍対策及び禍を考慮した訓練や研修実施 	<p>【備蓄食糧関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファ化米の備蓄の継続 ・様々なニーズに対応する備蓄食整備の検討 <p>【自主防災組織関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未結成自治会への自主防災組織立ち上げ及び補助金を活用した資機材整備の促進 ・マスクや消毒液などの新型コロナウイルス禍対策資機材の整備の検討及び促進

今後の取り組み方針

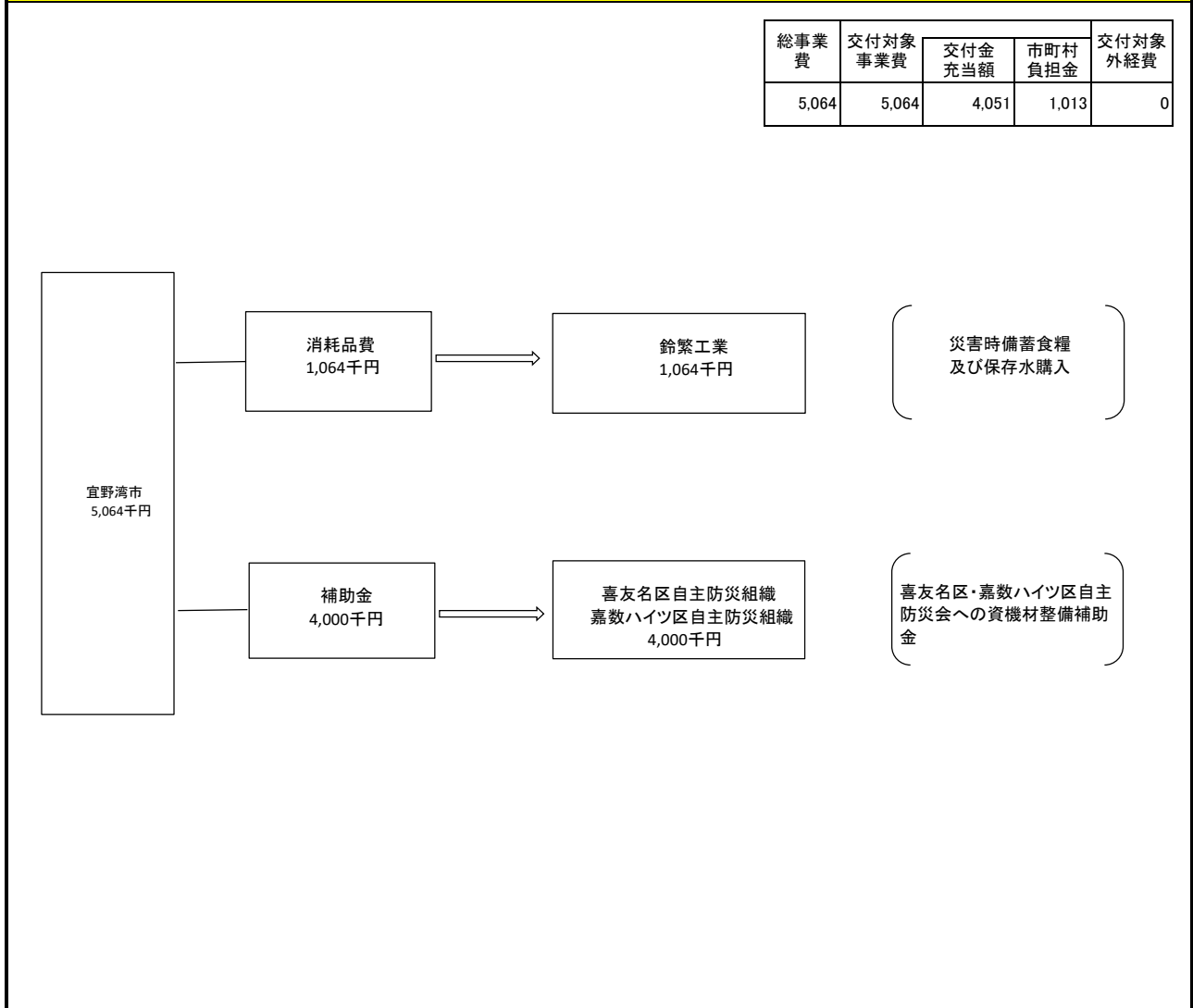
【備蓄食糧関係】

- ・令和3年度までに約2.7万食(市地域防災計画目標値)のアルファ化米の整備継続
- ・アレルギー対応食、ハラル食、乳幼児対応の備蓄食を検討
- ・個人備蓄の重要性をHPや広報誌などを通して周知・啓発促進

【自主防災組織関係】

- ・未結成自治会への自主防災組織立ち上げの促進及び補助金を活用した資機材整備の促進継続
- ・補助金を活用した新型コロナウイルス禍対策備蓄品購入の奨励及びそれらを活用した訓練の促進

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、点検、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・物品売買業者は指名競争入札で選定、妥当であったと考える ・予算規模は3社見積による予定価格設計妥当であったと考える ・費目、用途については、精査段階で検査しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア		
	担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組
III-8		事業内容					
普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、若手地権者等によって構成される「普天間飛行場の跡地を考える若手の会(以下若手の会)」や市民によって構成される「ねたてのまちペースミーティング(以下NBM)」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。							
効果発現年度	■当年度		■後年度(令和3年度)				
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,649	20,520	17,717	18,494	18,974
		(b) 予算現額	24,774	19,791	16,899	18,284	18,974
		(c) 増減額(b-a)	▲875	▲729	▲818	▲210	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		24,774	19,791	16,899	18,284	18,974
	B. 執行済額		24,736	19,766	16,865	18,223	18,748
	うち交付金充当額		19,788	15,812	13,492	14,578	14,998
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.9%	99.8%	99.7%	98.8%
予算の状況の説明		・委託契約の契約残及び旅費の執行残が226千円となったが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	目標	若手の会、NBMの定例会等の活動支援を行う。地権者向け意見交換会やホームページ等を通じて、関係地権者や市民へ情報を発信する。	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	
	実績		市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また地権者の活動支援・意向醸成と土地活用意向に関するアンケート調査を実施した。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また地権者の活動支援・意向醸成を行った。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また地権者の活動支援・意向醸成を行った。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また地権者の活動支援・意向醸成を行った。	
	目標		()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	・若手の会では、定例会の活動支援を行い、①跡地利用策定に向けた「計画内容の具体化」に関する学習、②「環境づくりの方針」をテーマに検討し独自の考えをまとめ、③その考えを計3回の字別意見交換会(計64名参加)で発表、④先進地視察や勉強会の開催など、知識の向上を図り、会で集約した考えを活動を通して対外的にPRした。また、地権者へ跡地利用に対する関心向上や合意形成に向けた活動を行った。 ・市民によるまちづくり検討組織であるNBMでは、定例会の活動支援を行い、①まちあるき実施に向けた検討及び実施や周辺市街地の課題を含めた跡地利用の検討、②「周辺市街地から考える普天間飛行場跡地利用」をテーマに検討、③検討内容について、県市共同調査における有識者検討会議にて報告、④普天間飛行場跡地利用に関するパネル展を開催し、市民へ向けに情報発信及び意見集約を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	目標	普天間飛行場の跡地利用について、若手の会、NBM各会員の理解を深めると共に、跡地利用に関する情報や各会での検討内容を関係地権者や市民へ発信する。また、取り組みのとりまとめ報告書を作成する。	()	普天間飛行場跡地利用計画策定	関係地権者の意向把握の経	関係地権者の意向把握の継続	()
	実績			平成29年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成	平成30年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成	平成31年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成	
	目標	【R3成果目標】跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	()	()	()	()	(80%以上)
実績							
進捗状況説明	・若手の会、NBM、懇話会等を通じて、様々な世代、関係者との意見交換や情報発信を行い、市民・地権者の意向把握や参画する機運を高める取り組みを継続し、跡地利用計画の具体化に向けた関係地権者等の意向醸成を進めているところであり、令和元年度においては、関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書を作成した。						

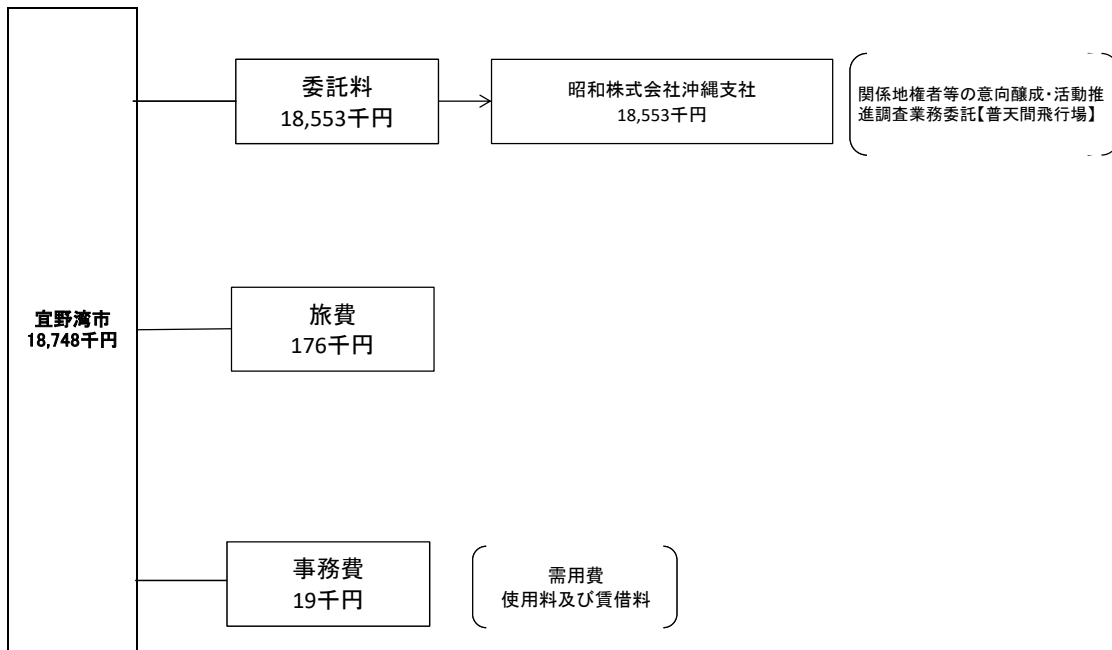
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、明確な返還期日が示されていないため長期的な取り組みが必要になるが、若手の会やNBMともに、普天間飛行場の返還時期の不確かさや周知活動の弱さ等から定例会への参加者減少や固定化が進んでおり、この先、会が自立していくための支援や組織強化が必要である。 ・地権者の相続や金融商品としての土地の小口化により、地権者数が約3800名まで増加している中、土地利用等についてどのように考えているのか調査が必要である。 ・令和2年度以降に跡地利用計画(素案)の策定が予定され、より具体的な跡地利用計画の検討が進められていく中で、今まで以上に多くの地権者・市民等の合意形成を図っていくという、「合意形成のすそ野を広げていく」ための取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い積極的な対外活動とパンフレットを活用した周知活動を行い、また組織体制の見直しも検討できるよう支援する。 ・多くの地権者が興味を持つテーマを設定・検証し、地権者意見交換会や情報誌で周知を図り、地権者の跡地利用への興味関心を高める。 ・市内小中学校の児童生徒に対し、跡地利用計画等の情報発信等を行い、児童生徒の家族を含め、市民全体の意向醸成を図る。

今後の取り組み方針

- ・若手の会では、若い世代の人材育成を積極的に行い、組織強化を図る。
- ・NBミーティングでは、メンバーの積極的な活動参加を促すとともにまちあるきやイベント等を通して広く市民へ情報発信を行い、メンバーの増員を図る。
- ・地権者・市民などに対しては情報提供や意見交換を行い、若手の会、NBMの活動や跡地利用に関わる取り組みについて周知を図る。
- ・市内小中学校を対象に将来を担う子供たちに普天間飛行場跡地利用についての意向醸成を図るための取組みを進め、跡地利用計画(素案)策定に向けた市民、地権者の気運醸成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
18,748	18,748	14,998	3,750	0



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-② 普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同調査)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア		
	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組	
担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8	
事業内容	宜野湾市と沖縄県が平成19年5月に策定した「行動計画」に基づき、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討と、市民・県民・地権者等に対して情報発信及び意見の聴取を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させる。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和3年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	19,654	22,106	21,488	19,809	20,707
	(b) 予算現額	17,932	20,911	19,593	19,809	20,123	
	(c) 増減額(b-a)	▲1,722	▲1,195	▲1,895	0	▲584	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	17,932	20,911	19,593	19,809	20,123	
	B. 執行済額	17,612	20,638	19,409	18,812	19,761	
	うち交付金充当額	14,089	16,510	15,527	15,049	15,808	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.2%	98.7%	99.1%	95.0%	98.2%	
予算の状況の説明	・委託契約の残額及び旅費、賃金、需用費、使用料等の執行残(584千円)を予算減額しているが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信	目標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		実績	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った。	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った。	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った。	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った。	
	目標	()	()	()	()		
	実績	()	()	()	()		
達成状況説明	・今後の計画づくりの推進のため、各分野ごとの検討課題に応じ、有識者や市民及び地権者の代表等で構成する有識者検討会議を設置し、跡地利用計画内容の具体化に向けた検討を行い、配置方針及び配置方針図の更新(案)を作成した。 ・今後の跡地利用計画策定に向けて、沖縄に関心のある県外の方々への情報発信を目的に内閣府主催のイベントにおいて跡地利用計画の取組み状況及びプロモーションビデオ、VR体験型の跡地内のまちあるきなどのコンテンツを出展し、広く情報発信を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	跡地利用計画(素案)に反映させる配置方針図の更新	目標	()	全体計画の中間取りまとめの配置方針図の更新検討	全体計画の中間取りまとめの配置方針図の更新検討	全体計画の中間取りまとめの配置方針図の更新案の作成	()
		実績	()	平成29年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	平成30年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	令和元年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	()
	【R3成果目標】	目標	()	()	()	()	(80%以上)
	実績	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	・宜野湾市と沖縄県が平成24年度に策定した「全体計画の中間取りまとめ」について、平成25年度作成した行程計画に基づき、計画内容の具体化を図るとともに市民・県民・地権者等に対して情報発信等を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させるための取組みを進めている。 ・成果目標については、計画内容を具体化していくため、有識者検討会議を設置し、配置方針及び配置方針図の更新(案)を取りまとめ。また市民・地権者への情報発信等跡地利用計画策定への取組みを進めているところであり、令和元年度においては普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書を作成した。						

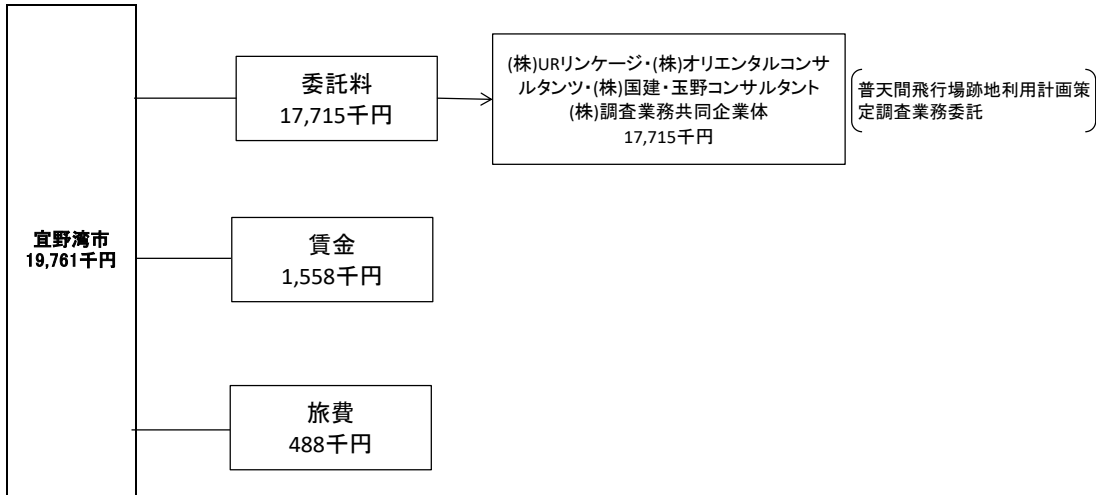
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、まだ不確定であることや、基地内の立ち入りが認められず、調査が十分に実施できないことから、跡地利用計画の策定に支障をきたしている。</p>	<p>・基地内の立ち入り調査等を早期に実現するため、関係省庁や米軍と調整、協議をすすめていく。</p>

今後の取り組み方針

・基地内の立ち入り調査等の早期実現に向けて関係省庁や米軍と調整、協議を進めていく。
 ・既存調査で作成したプロモーションビデオ等を活用し、県内外へ広く情報を発信するとともに、イベント等の様々な取り組みを通じて、跡地利用計画(素案)策定に向けて、各世代、各分野等の多くの方々から意見聴取を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,761	19,761	15,808	3,953	0



資金の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	被覆資材等導入推進補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	市民経済部観光農水課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本市農業振興を図る為、防風対策施設の設置及び被覆資材等導入にかかる経費に対する支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和3年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680
	(b)予算現額	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	
	B.執行済額	1,572	1,529	1,588	1,641	1,396	
	うち交付金充当額	1,257	1,223	1,270	1,313	1,116	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	93.6%	91.0%	94.5%	97.7%	83.1%	
予算の状況の説明	今年度19件の申請があったが、申請者の事業変更により、1件については交付なし。そのため、執行率は83%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	申請件数の増加(19件)	目標 (9件)	(19件)	(19件)	(19件)		
	実績	20件	18件	13件	19件		
	目標 ()	()	()	()			
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市広報誌への掲載や各生産組織等へ説明会を実施し周知に努めた結果、目標件数に届く19件の申請があった。 1名の方が、事業計画変更により、交付なしとなった。申請件数19件に対し、交付実績は18件となる。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)	
	被覆資材等導入面積(47,000)	目標	(7,418㎡)	(3,650㎡)	(26,500㎡)	(47,000㎡)	()
		実績		44,312㎡	492.55㎡	60,066㎡	
	【R3成果目標】 被覆資材等を導入したことによる生産上昇率5%	目標	()	()	()	()	(5%)
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> R1年度より、成果目標を被覆資材導入面積から生産上昇率5%へ変更。各生産者によって生産高はまちまちであるが、暴風雨や病害虫を防ぐ効果は確実にあり、生産量の向上に繋がっている。本事業の活用により、新種の栽培を開始した生産者も複数おり、総導入面積も60,066㎡と増加している。 						

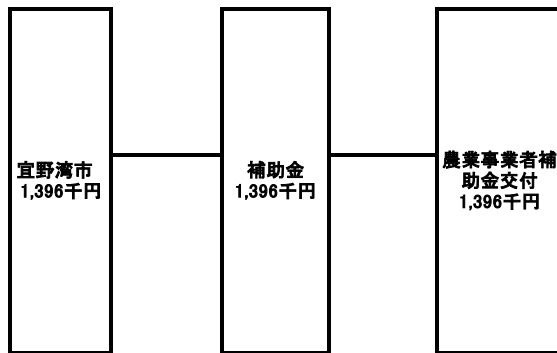
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本市の生産農家は小規模の事業者が多いため、本事業の効果はあるものの、その他の様々な要因で生産量が左右される。安定した生産量の向上が今後の課題となる。</p>	<p>・生産量が減少している生産農家について、状況の把握とJAなどの関係機関の協力を頂きながら、生産量の向上に努める。</p>

今後の取り組み方針

・台風の多い沖縄では、圃場の被害が多くあり、本市の農業振興を図る観点からも本事業の意義は大きい。また、補助を受けている生産者より、被覆資材を導入することで、病害虫の被害が少なく安定的な生産に繋がっているとお声もいただいている。今後も本事業を継続し、生産農家支援に努めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,714	1,396	1,116	280	1,318



受益者負担額(1,318千円)19件

資金の流 れ、費 目・ 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は農業従事者であり選定については妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助要綱に基づき補助額を決定しているので受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	多様な働き方就労支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
担当部署名	市民経済部産業政策課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	子育てや介護など家庭の事情等で従来の働き方では就労が難しい方を対象として、研修によるスキル習得及び職場実習でのマッチングを図り、就労機会の創出を目指す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額			31,892	23,048	23,044	
	(b) 予算現額			25,892	23,048	23,044	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 6,000	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	0	0	25,892	23,048	23,044	
	B. 執行済額			24,171	23,047	23,040	
	うち交付金充当額			19,337	18,437	18,432	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	93.4%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	活動目標達成のため、当初計画通り執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	就業希望者に対し、就職に優れたスキルを取得させる。	目標	()	(20名)	(20名)	(20名)	
		実績		27名	23名	20名	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の2期で受講生を募集し、各20名の定員で実施した。 ・講座内容を充実させ、プログラミングスキルの習得によって、企業への就職だけでなく、在宅就労、起業も可能な講座内容となっており、また、企業とのマッチングや受講生の相談にも随時対応できる体制をとったため、目標値を達成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		目標	()	(20名以上)	(20名以上)	(20名以上)	()
	支援者のうち新規就労に繋がった人数20名以上	実績		27名	23名	20名	
		目標	()	(25.5%以上)	(39%以上)	(39%以上)	()
	支援者のうち新規就労に繋がった割合	実績		50%	52%	50%	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT分野は技術の進歩が速く、技術や知識を常に更新していく必要があるため、講座内容は受け身のものではなく、受講生が自ら調べ、考えることに主眼を置いたものとなり、受講生にかかった負荷は大きかったと思われるが、相談に随時応じられる体制を整えていたため、新規就労に繋がった割合が50%に達成することができた。 					

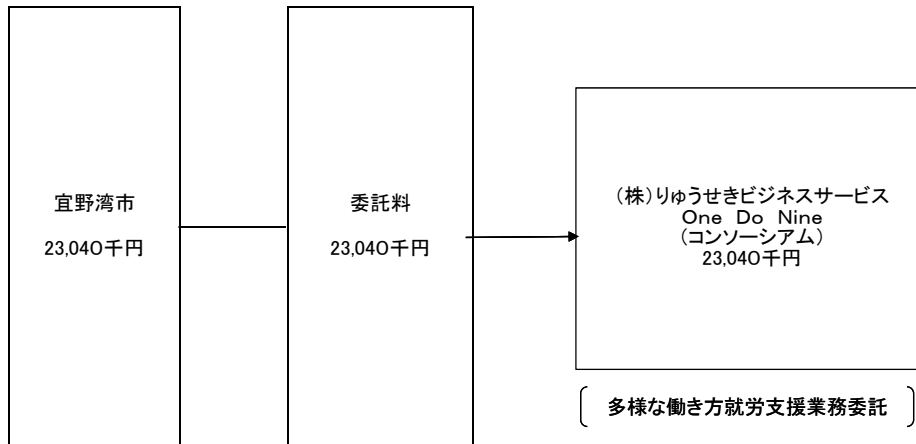
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・受講生の応募が想定より伸びなかった(特に2期生)。	・受講生の募集については、市内へのチラシ全戸配布、スーパーやコンビニ、公共施設でのポスター掲示、SNSの活用等、多種多様な手法を用いたが、応募数は伸びなかったため、新たなスキームによる多様な働き方の推進を検討する。

今後の取り組み方針

・近年の雇用情勢の改善によって失業者数が減少しており、受講生を集めるのが困難な状況になっている。現在のスキームによる事業遂行は難しくなっていると考えられるため、新たな事業スキームや支援の在り方を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
23,040	23,040	18,432	4,608	0



資金の流 れ、 点 検 評 価 ・ 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○人件費及び賃借料、その他諸経費は適正な規模で、実績に応じて精算を行った。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	宜野湾市ひとり親家庭生活支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章-2-(2)-(エ)		
担当部署名	福祉推進部 児童家庭課	事業実施(予定)年度	平成28～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援 Ⅲ-4		
事業内容	支援が必要なひとり親の中でも自立に向けた具体的な目標及び意欲のある世帯に対し、より安定した生活基盤を整え早期の自立につなげるため、就労支援や住宅支援等の総合的生活支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額		7,040	10,401	12,411	15,058
		(b) 予算現額		7,040	6,289	9,516	8,582
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 4,112	▲ 2,895	▲ 6,476
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	0	7,040	6,289	9,516	8,582
		B. 執行済額		4,308	5,178	8,230	6,107
		うち交付金充当額		3,446	4,142	6,584	4,885
		次年度繰越額		0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	61.2%	82.3%	86.5%	71.2%
予算の状況の説明	・支援対象を10世帯予定したが、実績が1世帯であったため、住宅支援(家賃分)と付帯事業に生じた不用額6,476千円について補正で減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	生活支援コーディネーターによる就労支援及び生活全般の相談・同行支援	目標	()	(生活相談及び同行支援)	(生活相談及び同行支援)	(生活相談及び同行支援)	
		実績		支援の実施	支援の実施	支援の実施	
	新規支援対象者 10世帯	目標	(5世帯)	(8世帯)	(10世帯)	(10世帯)	
		実績	5世帯	4世帯	9世帯	1世帯	
達成状況説明	・生活支援コーディネーターにより、転職相談などの就労支援、子育てや家計相談などの生活全般の相談などを総合的に行った。 ・新規支援対象者については、チラシ・ポスターの配布に加え、民生委員研修会や保育園長会、不動産事業者、FMラジオなどを活用し、積極的な周知活動を行ったが、当初予定していた10世帯に及ばなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	支援対象者のうち自立につながった割合80%以上	目標	()	(60%)	(80%)	(80%)	()
		実績		77.7%	88.89%	100%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・支援を行った1世帯が必要な転居を行った。子育て講座の受講などで子育てに対する不安感の解消、さらに転職により収入の安定、自立につながったと評価された。					

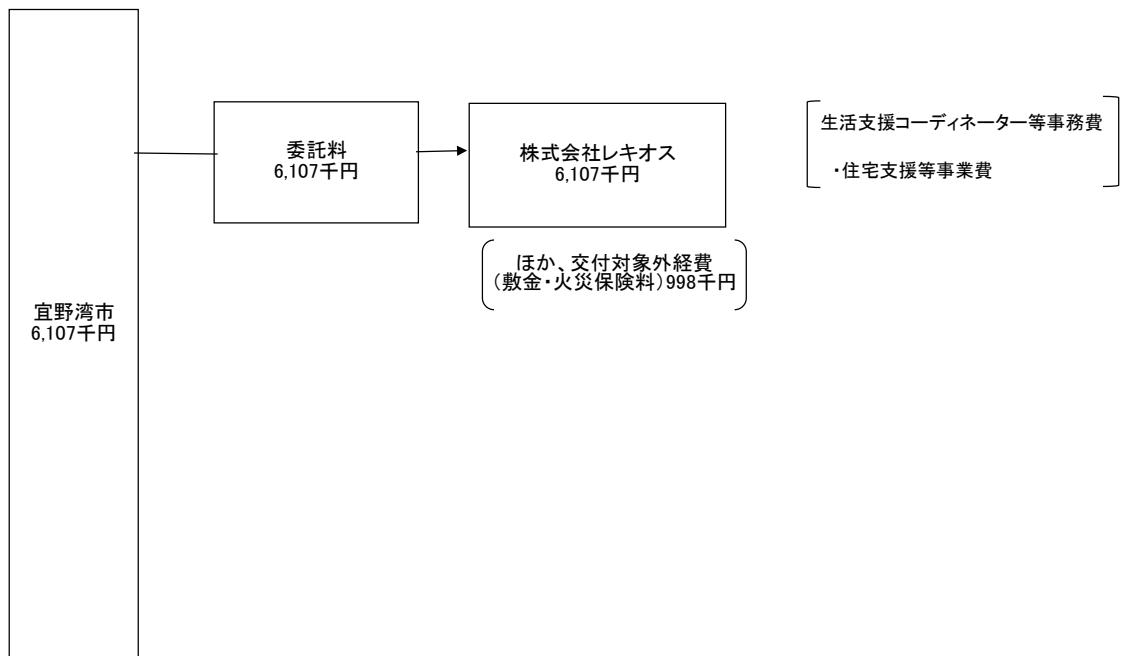
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた支援を行うにあたり、支援に対する応募内容と本事業との趣旨との乖離が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望の多い家賃補助のみでは、一時的な支援となり、自立につながらないため、市民ニーズに添った、就労支援や生活支援が行える事業の検討

今後の取り組み方針

・近年相談・申請件数とも増えている、就業支援及び生活の負担軽減を図れる資格取得支援制度や相談窓口の体制強化を図り、ひとり親家庭への総合的な自立支援を目指す。
 ・本事業の趣旨と応募内容が乖離しているため、次年度以降の事業を廃止する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,105	6,107	4,885	1,222	998



資金の用途の流れ、点検、評価、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○家賃補助により安定した居住環境を提供し、その期間で自立に向けた就労支援等を行っており、支援対象者との負担関係は適切である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途が事業目的に即していると考えている。

市町村名	宜野湾市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10	地域キャリア教育支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-イ	
担当部署名	市民経済部産業政策課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の雇用促進	
事業内容	地域の企業、学校、保護者等が連携した宜野湾市みらいづくり連携協議会を開催し、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、小学生を対象にした職業体験プログラム等を実施することで、児童生徒の就業意識の向上及び若年者の失業率の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額				5,269	5,269
		(b) 予算現額				5,269	5,269
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-			-	-
		A. 計 (b+d)	0	0	0	5,269	5,269
		B. 執行済額				5,269	5,269
		うち交付金充当額				4,215	4,215
		次年度繰越額				0	0
		執行率 (%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	活動目標達成のため、当初計画通り執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・宜野湾市みらいづくり連携協議会の開催(3回)	目標	()	()	(3回)	(3回)	
		実績			2回	2回	
	・小学校、中学校毎に職業体験プログラムの実施	目標	()	()	()	(13校)	
実績				5校:1,230名	13校:3,685名		
達成状況説明	・連携協議会の開催については、各委員の日程調整や実施スケジュールの関係で2回となった。分科会として、効果測定のためのアンケート見直し部会を、有識者の委員を交えて1回行った。 ・学校での職業体験プログラムの実施は、前年度事業で各学校へのヒアリングや事業説明による周知効果によって、市内全小中学校(小学校9校、中学校4校)で実施し、3,685名の受講となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	就業意識の肯定的変化(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証を行う。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績				小学校:88.2% 中学校:70.5%	小学校:94% 中学校:95.8%
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・アンケートの項目のうち、「将来仕事をしたいと思いますか」に対し、「思う」、「まあ思う」で確認した。結果、小学校は94%、中学校で95.8%となり、一定の成果を挙げる事ができた。						

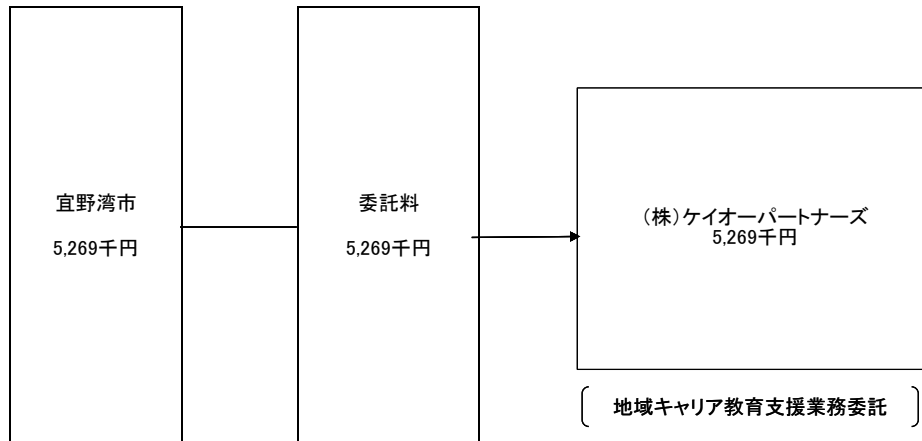
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校から職場体験受入事業所の開拓について、教員による開拓は限界があるので支援してほしいとの要望がでている。 中学校の職場体験受入事業者からは、受入れに興味があるものの「生徒たちに何をさせたいのかわからない。させる業務がない」という声があり、受け入れを躊躇させる要因の一つになっている。 アンケートによる就業意識向上の効果測定は、多数ある項目の一項目で計測している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の職場体験受入事業所の開拓については、本事業が沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して実施していることや、事業の趣旨や協議会の役割を踏まえながら、今後を検討する必要がある。 職場体験受入事業所で、受け入れ方、考え方の理解が深まれば、体験の質が高まると考えられる。 多角的に就業意識の向上を図れるようアンケートの見直しが必要(実施済み)

今後の取り組み方針

- 中学校の職場体験受入事業所の開拓に関しては、連携協議会で、引き続き協議を深めつつ、教育界と産業界をつなぐ支援をしていく。
- 職場体験受入事業所には、職場体験マニュアルの作成や企業向け説明会開催などを検討する。
- 有識者を交え、アンケートの見直しを行ったので、次年度はより多角的に検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,269	5,269	4,215	1,054	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業効果を見極めるのに一定の年数を要すること(3年を想定)、各学校との連携が必要で、前年度からの関わりが求められることから、前年度に公募型プロポーザル方式で選定した事業者と随意契約をした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○人件費及び賃借料、その他諸経費は適正な規模で、実績に応じて精算を行った。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	11	宜野湾バイサイド情報センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-(ア)			
担当部署名	市民経済部 産業政策課	事業実施(予定)年度	平成30~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	情報通信関連産業の立地促進			
事業内容	本市の創業支援事業計画にも情報通信産業事業者のワンストップ相談窓口として位置付けられている宜野湾バイサイド情報センターにて、引き続き創業支援や企業立地促進を図ることにより、情報通信産業を発展させるために施設の基盤を整備する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	5,677	154,744				
		(b)予算現額	5,281	82,359				
		(c)増減額(b-a)	▲396	▲72,385	0	0	0	
		(d)繰越額	-	-				
		A.計(b+d)	5,281	82,359	0	0	0	
		B.執行済額	5,281	82,359				
		うち交付金充当額	4,224	65,887				
		次年度繰越額	0	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	契約執行残を補正で減額した。							
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	空調機工事	目標	(空調機工事実施設計)	(空調機工事)	()	()		
		実績	完了	完了				
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	随意契約 宜野湾バイサイド情報センター空調改修工事監理業務委託 令和元年8月27日 中央設備設計事務所と業務委託契約 3,080,000円 令和2年3月31日 完了 指名競争入札 宜野湾バイサイド情報センター空調改修工事(機械) 令和元年8月27日 株式会社 大設と契約 61,591,200円 令和2年3月30日 完了 指名競争入札 宜野湾バイサイド情報センター空調改修工事(電気) 令和元年8月27日 株式会社 シーイーと契約 17,688,000円 令和2年3月30日 完了							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)	
	空調機工事の完了	目標	()	(空調機工事実施設計)	(空調機工事)	()	()	
		実績		完了	完了			
	【R3年度成果目標】 宜野湾バイサイド情報センターを企業の創業支援等の場として引き続き活用することが目的であるため、現在の入居企業数10社(入居率100%)を維持することを目標として設定した。		目標	()	()	()	()	(入居企業数10社を維持)
			実績					
進捗状況説明	工事のスケジュール等について、入居企業との調整に時間がかかったが、何とか年度内の完了をする事が出来た。 令和2年3月時点で入居企業数は10社となっている。							

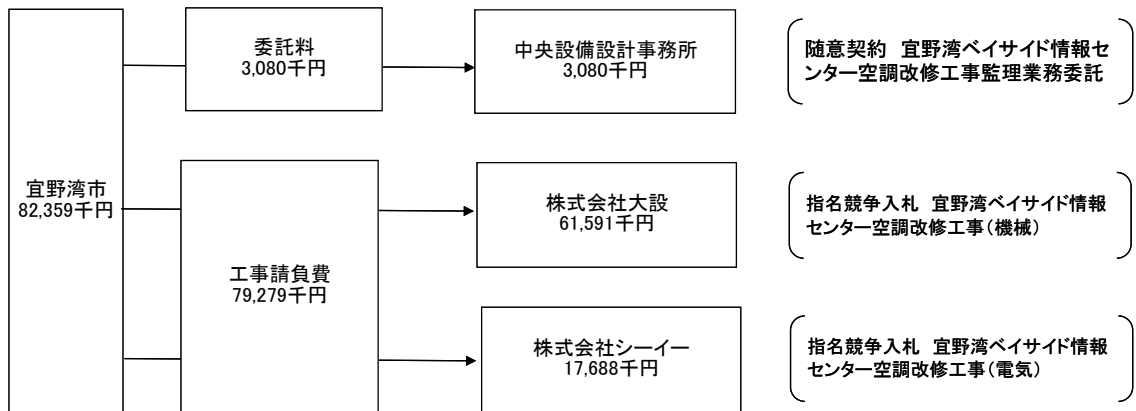
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>当施設の3Fから5Fは情報通信産業事業者の入居施設となっており、入居期限は5年間となっている。現在までに数々の事業者が大きく育っているが、市内の民間物件も含め事業者が希望するオフィスが極めて少なく、成長を後押しする環境整備がない事により、大きく成長した事業者を他市に逃がしてしまう事が課題となっている。</p> <p>また、宜野湾市へ移転希望のある事業者に対しても同じく、環境整備がない事により企業受け入れのチャンスを他地域に逃がしてしまっている。</p>	<p>左記の問題がある為、解消するために沖縄振興特別推進交付金事業を活用して、平成29年度に宜野湾市情報通信産業振興施設PFI基本構想・事業手法検討調査事業、平成30年度に宜野湾市情報通信産業施設計画策定事業を行っている。</p>

今後の取り組み方針

当施設では市内、県内及び県外からの新規創業者への立地支援、や宜野湾ペイサイド情報センターで行われている創業者支援(インキュベーションシェアオフィス)の継続当施設の入居率100%を維持していきながら、次の施設の整備を推進していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
82,359	82,359	65,887	16,472	0

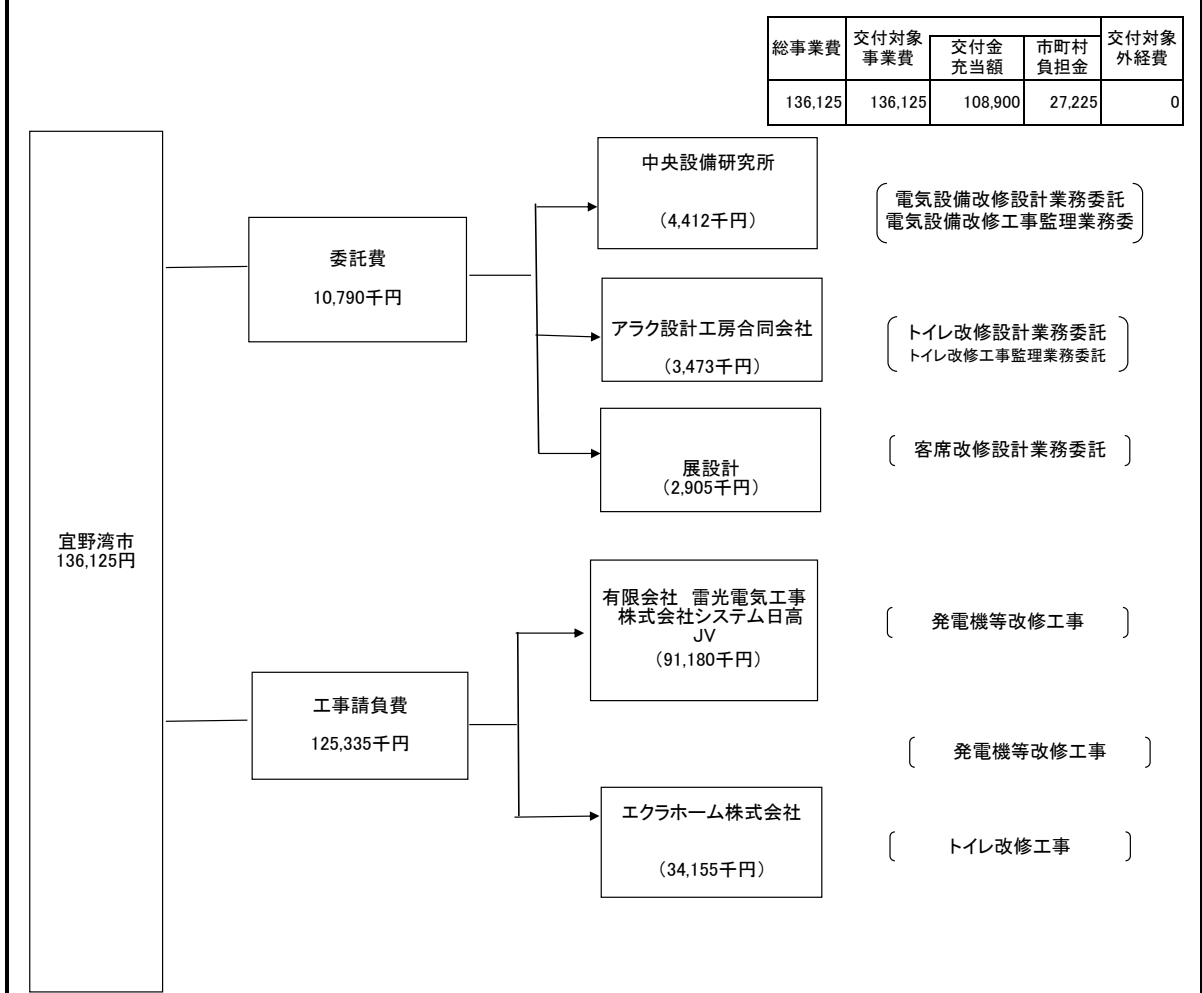


資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・宜野湾ペイサイド情報センター空調改修工事監理業務委託実施設計受託者と契約。随意契約とする理由書あり。 ・宜野湾ペイサイド情報センター空調改修工事(機械)市内業者12社で指名競争入札を行い委託業者を決定している為、選定方法は妥当と考える。 ・宜野湾ペイサイド情報センター空調改修工事(電気)市内業者11社で指名競争入札を行い委託業者を決定している為、選定方法は妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○契約金額が当初予算より減額になったが、金額の変更申請を行った。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	12	市民会館機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ	
担当部署名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成30～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造	
事業内容	<p>・文化活動の拠点として、市民の舞台発表や芸術鑑賞の場として活用されているが、建設から35年以上経過し、施設の老朽化が進んでいます。普天間飛行場移設及び跡地利用に至るまでに長期間を要することが想定されるため、機能強化とバリアフリー化を図りながら、安全、快適で利用しやすい環境を整え、市民が質の高い文化芸能に触れる機会や文化活動を行う場の確保を図るため、宜野湾市民会館の整備を実施する。</p>					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額				72,383	151,848
	(b) 予算現額				54,842	136,808
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 15,040
	(d) 繰越額	—			—	—
	A. 計(b+d)	0	0	0	54,842	136,808
	B. 執行済額				54,842	136,125
	うち交付金充当額				43,873	108,900
	次年度繰越額				0	0
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	99.5%
予算の状況の説明	入札残が生じたことから、委託料15,040千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・変電室内低動力盤・電灯盤等改修(設計・工事)	目標 ()	()	()	(完了)	
	・市民会館発電機更新(設計・工事)	実績			完了	
	・3階トイレ改修(設計・工事)	目標 ()	()	()	(完了)	
	・バリアフリー対策による客席機能強化(設計)	実績			完了	
	・大ホール等天井落下防止設計	目標 ()	()	(完了)	()	
	・舞台照明装置機能強化工事	実績		完了		
	・客席ダウンライトLED化設計	目標 ()	()	(完了)	()	
	実績			完了		
達成状況説明	<p>・発電機等を改修することで非常時における適切な施設運営が可能となった。トイレ改修においては施設内のトイレをすべて洋式化し、また乾式化することで段差を解消し、バリアフリー化を行い、これまで未整備だった授乳室を設けたことで利用者の利便性を図ることができた。</p>					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(3年度)
	・変電室内低動力盤・電灯盤等改修(設計・工事)の完了	目標 ()	()	(完了)	(完了)	()
	・市民会館発電機更新(設計・工事)の完了	実績		完了	完了	
	・3階トイレ改修(設計・工事)の完了	目標 ()	()	()	()	()
	・バリアフリー対策による客席機能強化(設計)の完了	実績				
	【R3目標指標】年間利用者数	目標 ()	()	()	()	(59,287人)
進捗状況説明	<p>実施計画に基づき、市民会館を円滑適正に管理運営するために、長期的な活用を視野に機能強化とバリアフリー化を図りながら、維持管理に努めたい。</p>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	変電室内低動力盤・電灯盤等改修工事とトイレ工事が工期が同じであったため、様々な不具合が生じた。事務系統は継続して業務していたため、動力盤の不具合やトイレ工事の制限など来館される利用者にも配慮を要したが担当職員と現場監督との密な調整で回避することができた。	工期の重複により、現場で多少混乱が見られたため、工期末を調整することで現場の施工性に配慮する。
	今後の取り組み方針	
<p>保全計画に基づき、快適でより利用しやすいよう機能面の向上を取り入れながら市民会館機能強化を進めていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	13	宜野湾市みどりの風景づくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-1-(3)-ウ	
担当部署名	建設部 都市計画課	事業実施(予定)年度	令和元～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	低炭素都市づくりの推進	
事業内容	自然環境の保全・再生、みどりに包まれた魅力的な都市環境の創出に向けて、官民一体となった緑地の保全や緑化の推進に関する方針を定めるための基礎調査を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度			
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		11,459			
			10,560			
			▲ 899			
			—			
			10,560			
	B. 執行済額		10,560			
	うち交付金充当額		8,448			
	次年度繰越額		0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%			
予算の状況の説明		委託契約の入札残を予算減額し、業務を実施した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況			
			R1年度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・都市概況調査(自然・社会的条件) ・緑の現況調査 ・緑に関する市民意向調査 ・緑地保全・緑化に関する施策の評価 ・緑の風景づくりに向けた課題分析及び施策の基本方向 	目標	(調査の実施)	()	()	()
		実績	調査の実施			
		目標	()	()	()	()
	実績					
達成状況説明	都市概況調査、緑の現況調査、緑に関する市民意向調査、緑地保全・緑化に関する施策の評価、緑の風景づくりに向けた課題分析及び施策の基本方向等、各種調査を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度		目標値(年度)
	基礎調査の完了	目標	()	(調査の完了)	()	()
		実績		調査の完了		
		目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	基礎調査を完了し、報告書を作成した。					

